WinBook **Bird**

S3P150G

ユーザーズガイド

SOTEC

重要なお知らせ

このユーザーズガイドに含まれる情報は、事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

版権についてのお知らせ

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

WinBook Bird
S3P150G
ノートブック コンピュータ
ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Birdをお買い上げいただきまことにありがとうございます。 ソーテックWinBook Birdは、高精細の800×600ドットワイド画面に加え、ベースステーションと接続することでCD-ROMドライブやステレオスピーカなどのマルチメディア機能が追加され、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトなレターサイズで実現しています。
このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を7つのセクションに分けて説明しています。
ソーテックWinBook Birdを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

> Windows®95の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読みください。
> この中には、Winbook Birdを使用される上で重要な情報が記述されています。
> 特に、Windows®95を再インストールされる場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりにドライバー等のインストールを行わないとWinbook Birdの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

株式会社ソーテック

WinBook

本製品を正しくお使いいただくために

ご使用の前に取り扱い上の注意をよくお読みになり正しくお使いください。

⚠警告

水場使用禁止

●洗い場、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを超える電源を使用すると火災・感電の原因となります。

●絶対に分解したり修理・改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

●ACアダプタから何かこげるような匂いがしたり、表面がかなり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。

●付属のバッテリ以外は使用しないでください。また、付属のバッテリを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因になります。

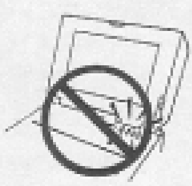
●バッテリは火気の近くや直射日光の当たる場所で使用、放置、充電しないでください。危険防止の保護回路が壊れることがあります。

●バッテリに強い衝撃を与えたりしないでください。

お願い



●液晶ディスプレイは先の尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。



●ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

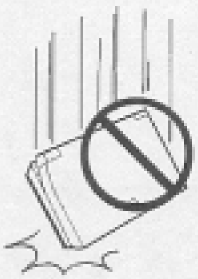
●本製品にインストールされているWindows®95、および各種ユーティリティソフト が収録されているフロッピーディスクは大切に保存してください。

●ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取りください。

⚠注意



●ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分を持って抜いてください。



●落としたり強い衝撃を与えないでください。また、重い物をのせないでください。故障による火災・感電の原因となります。



●バッテリは火中に投じたり、加熱・分解・ショート(+と−の端子を針金などで接続させること)はしないでください。ケガの原因となります。



●使用時以外は電源プラグをコンセントから抜いてください。
漏電・火災の原因となります。



●熱の発生源の近く、直射日光のあたるところ、腐蝕性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用周囲温度(10~30℃)/使用周囲湿度(20~80%)を超える範囲では使用・保存しないでください。



●ディスプレイを閉じるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを閉じますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

●長時間使用する場合は、本体の底部が発熱しますので、膝の上に置いて使用しないでください。（発熱することは異常ではありません。）
●バッテリから液が漏れたり異臭がするときは、すぐに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火して、発火・破裂のおそれがあります。もし、電池から漏れた液が眼に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
●本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶらさげた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。
●グライドポイントの表面をペン先などの尖ったもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。
●グライドポイントは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

保証について

保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。
保証期間後の修理については、お買い求めいただいた販売店までご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有償で修理いたします。
保証書は、お買いあげいただいた販売店で、所定事項を記入のうえお受け取りになり、大切に保管してください。

⚠注意 **本製品を、分解、改造された場合、保証期間であっても無償保修の対象にはなりません。また、修理対応もできません。**

お手入れについて



●液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。

●フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

・カラー液晶ディスプレイおよびバッテリは消耗品です。
・カラー液晶ディスプレイは非点灯、常時点灯などの画素が存在することがありますが故障ではありません。
・カラー液晶ディスプレイは表示内容によっては明るさのむらが発生することがありますが故障ではありません。
・使用周囲温度が低いとき、また本製品自体が冷えきっているときは、電源をONにしてもディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの症状がでます。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく常温(10~30℃)の環境に放置した後、お使いください。

Contents

第1章 スタートアップガイド

第2章 キーボード操作になれよう

第3章 マルチメディアを楽しもう

第4章 システムを拡張する

第5章 システムの設定を変える

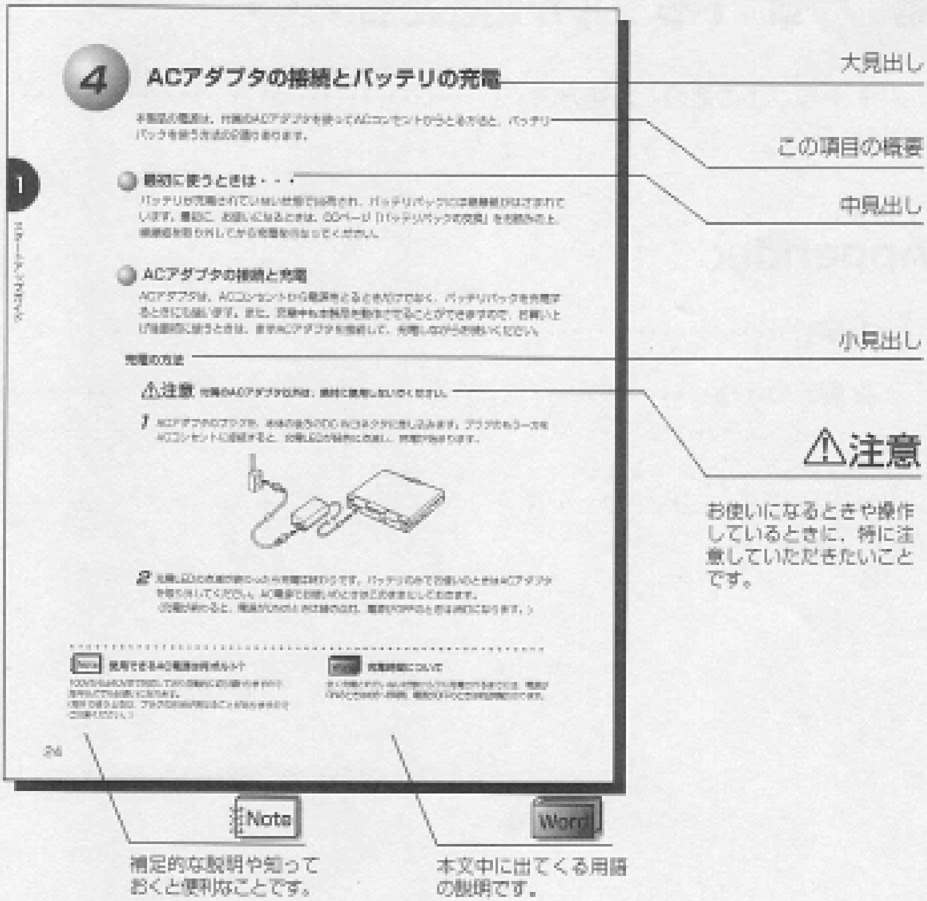
第6章　ベースステーションと接続する

第7章　トラブルが起きたら・・・

Appendix

ユーザーズガイドの読みかた

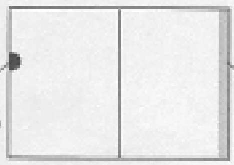
各ページの構成は、次のようになっています。



インデックスについて

チャプターインデックス

各章ごとに付けられています。



クイックインデックス

開いているページの大見出しです。左右両ページに大見出しがあるときは2つ入っています。

チャプターインデックスとクイックインデックスを使うと、素早く目的のページを探すことができます。

このユーザーズガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく7つのセクションに分けられています。

付属品の確認から実際に電源を入れてWindows®95を立ちあげるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。

スタートアップガイド 1

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードになれていない方は必ずお読みください。

キーボード操作になれよう 2

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能の使いかたについて説明しています。

マルチメディアを楽しもう 3

PCカードの使いかた、メモリやハードディスクを交換する方法、および内蔵FAXモデムの取り付け方法と外部周辺機器の接続方法について説明しています。

システムを拡張する 4

システムコンフィグレーションを使ったシステムの設定の変更や、パワーマネージメント機能の設定を変更する方法について説明しています。

システムの設定を変える 5

CD-ROMドライブなどの拡張機器や,LAN（10Base-T）などの各種コネクタを装備したベースステーションとの接続について説明しています。

ベースステーションと接続する 6

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

トラブルが起きたら・・・ 7

本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

Appendix

コンピュータに触れるのは初めてという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作になれよう」だけお読みいただければ、ひと通り使いこなせるようになります。
マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードや内蔵FAXモデムを使って機能を拡張するなど、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」「第4章 システムを拡張する」「第6章ベースステーションと接続する」をお読みください。
また、パワーマネージメント機能の設定を変えたり、システムを自分好みの設定に変えようとする場合は、「第5章 システムの設定を変える」をお読みください。
使っているときに動作がおかしくなったり、何らかのトラブルが発生した場合は、「第7章 トラブルが起きたら…」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、114ページの「第7章 トラブルが起きたら…」のページをお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザーズガイドを読んでもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。

- ・お客様の名前、連絡先
- ・本製品を購入された販売店、代理店の名称
- ・本製品のシリアル番号、または、製造番号（コンピュータ底面のラベルに印刷してあります）
- ・トラブルが起きたときの状況と状態、または、問題点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題点を記入し、FAXで送付します。

ソーテック　テクニカルサポートセンタ

電話番号　045-224-1125
FAX番号　045-224-1126

毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後5時
（祝祭日を除きます。）

書面の郵送、または物品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包(梱包箱、パッキン)にてご返送ください。

〒220-81　神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1-1
株式会社ソーテック　テクニカルサポートセンタ

⚠注意 **ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。**
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

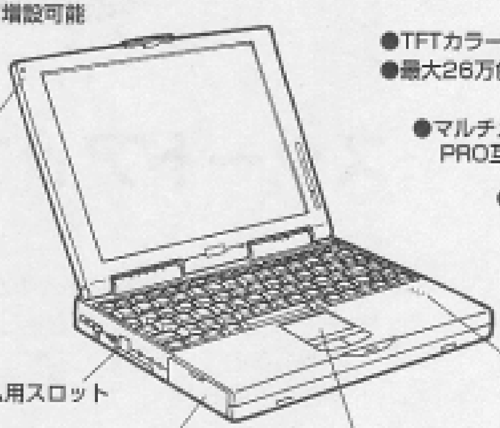
第1章

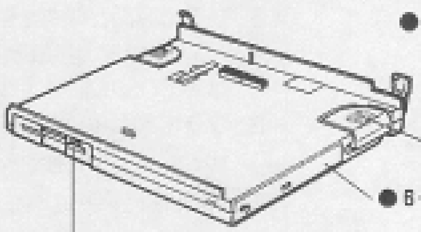
スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindows®95を立ち上げるまでを、順を追って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときには必ずお読みください。

1 WinBook Birdの機能を知る

WinBook Birdの主な機能や特長を紹介します。





●Windows®95をプレインストール



●インターネットエクスプローラを
プレインストール

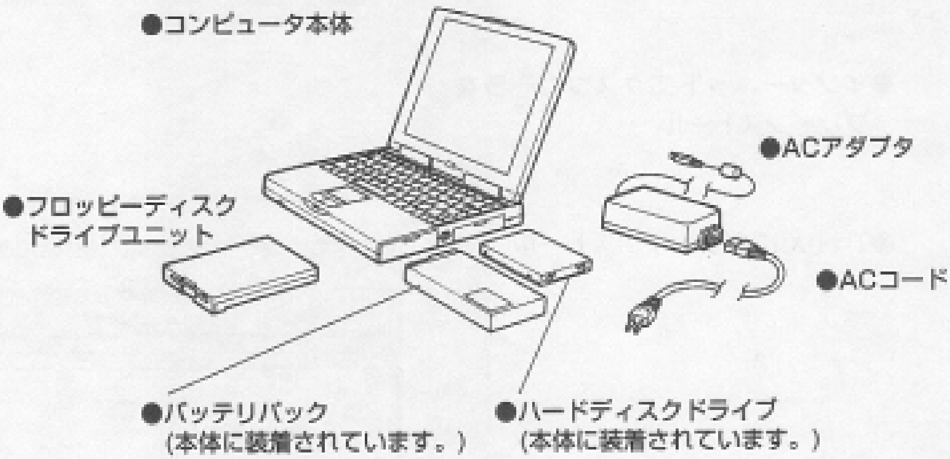
●TranXit2をプレインストール



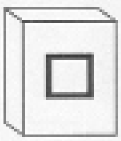
2 梱包の内容を確認する

ソーテックWinBook Birdには、本体の他に次のような付属品とソフトウェアが含まれています。パッケージを開けたら、不足品がないかどうか確認してください。

ハードウェアと付属品



●Windows®95 パッケージ

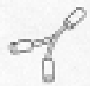


- ・Windows95マニュアル
- ・Registration Card
- ・ディスクラベル
- ・CD-ROM

●汎用ディスクラベル

各種ドライバのバックアップ用にご利用ください。

●スプリッタ



●FDDケーブル

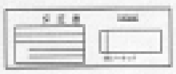
●WinBook Bird ユーザーズガイド(本書です。)



●ユーザ登録カード



●保証書



●テックサポートFAXシート



インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。

●Microsoft Windows®95

米国マイクロソフト社が開発したコンピュータのオペレーティングシステムです。同時に複数のアプリケーションを実行できる「プリエンプティブマルチタスク環境」を実現するとともに、グラフィックを使ったインターフェース(GUI)を持ち、グライドポイントを使って簡単にコンピュータを操作することができます。
また、ハードウェアの追加などが簡単にできる「プラグ アンド プレイ」や、アプリケーション間の連携プレイを実現する「OLE2」、他のコンピュータとデータや機器を共有したり電子メールを送受信できる「ネットワーク」機能、ビデオやサウンドを再生できる「マルチメディア」機能など、数々の先進機能が搭載されています。
Windows®95の詳しい使いかたについては、付属のWindows®95のマニュアルをお読みください。

●インターネットエクスプローラ

米国マイクロソフト社が開発したWindows®95専用のWWW(World Wide Web)ブラウザです。インターネットセットアップウィザードを使用することで、インターネットとの接続に関する設定もほとんど自動的に行います。また、Windows®95と同じインタフェースを持っているので、ドラッグアンドドロップやショートカットといった簡単な操作で、インターネットの世界を楽しむことができます。
インターネットエクスプローラの詳しい使いかたについては、インターネットエクスプローラのヘルプをお読みください。

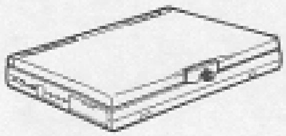
●TranXit 2

TranXit(トランジットと読む)は、IrDAポートやシリアルケーブルを使って、コンピュータ間でファイルのコピーや移動、削除などのファイル転送を行うWindows用ソフトウェアです。また、2台のコンピュータ間でファイルの同期をとったり、クリップボード内のデータを転送することもできます。IrDAポートを持つプリンタと通信することで、ケーブルで接続することなく印刷を指示することもできます。
TranXitの詳しい使いかたについては、TranXitのReadmeファイルをお読みください。

3 各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、参照ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め

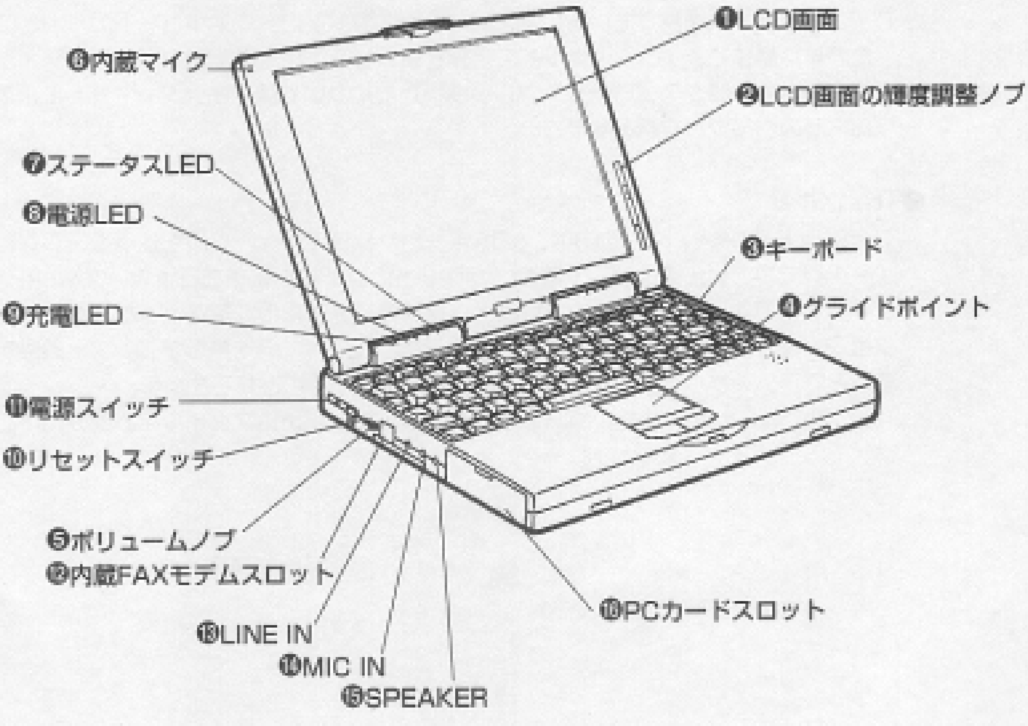


カバーを開けるときは、手前のノブを押して、見やすい角度まで開きます。



カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。（ONのままカバーを閉じるとサスペンド状態に入るよう、システムコンフィグレーションメニューで設定できます。）

前面/上面



❶LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。パワーマネージメントの設定によりコンピュータが動作していなければ、自動的に表示が消えるようにすることもできます。(➔ 94ページ)

❷LCD画面の輝度調整ノブ

画面の明るさを調整します。(バッテリ動作中は輝度が自動的に低減されます。)

❸キーボード

キーを押して文字を入力したり、コマンド(命令)を送ります。

❹グライドポイント

指を軽くのせて動かすと、カーソルが移動します。(➔ 32ページ)

❺ボリュームノブ

音量を調整します。(➔ 43ページ)

❻内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 60ページ)

❼ステータスLED

動作状態を表示します。(➔ 25ページ)

❽電源LED

電源の状態を表示します。(➔ 27ページ)

❾充電LED

充電の状態を表示します。(➔ 27ページ)

❿リセットスイッチ

コンピュータを再起動させます。(➔ 31ページ)

⚠注意 **HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。**

⓫電源スイッチ

電源をON/OFFすることができます。また、パワーマネージメントメニューの設定により、サスペンド状態にさせたり、サスペンド状態から動作状態に戻すことができます。(➔ 98ページ)

⓬内蔵FAXモデムスロット

別売の内蔵FAXモデムを取り付けるスロットです。(➔ 72ページ)

⓭LINE IN

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 61ページ)

⓮MIC IN

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(➔ 61ページ)

⓯SPEAKER

外部スピーカのケーブルを接続します。音声はステレオで出力されます。

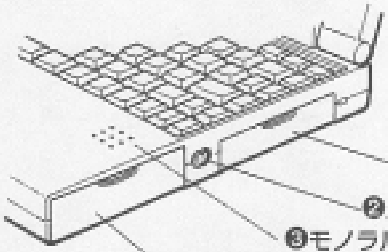
⚠注意 **ヘッドホンやイヤホンは接続しないでください。突然大きな音が鳴り聴力傷害を起こすおそれがあります。(➔ 61ページ)**

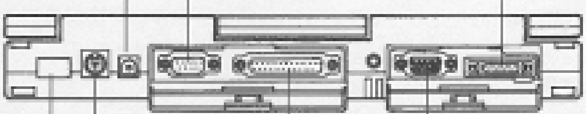
⓰PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを装着します。(➔ 68ページ)

右側面・後面

ノブを下げながら、ふたを開けてください。





❶HDDスロット

HDDカートリッジを収納します。(➔ 78ページ)

⚠注意　コンピュータが動作中はHDDカートリッジを取り出さないでください。

❷バッテリパック取り出しボタン

バッテリパックを取り出すときにこのボタンを押します。(➔ 28ページ)

⚠注意　ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリパックを取り出さないでください。

❸モノラルスピーカ

モノラルスピーカです。(➔ 60ページ)

❹バッテリパックスロット

バッテリパックを装着します。(➔ 28ページ)

❺外部キーボード／マウスポート

PS/2キーボードやPS/2マウス(添付のスプリッタが必要)を接続することができます。(➔ 81ページ)

❻IrDAポート

赤外線を使った高速データ通信用のポートです。(➔ 84ページ)

❼DC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(➔ 26ページ)

❽シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM3」～「COM4」に変えることができます。(➔ 90ページ)

❾プリンタポート

プリンタを接続します。パラレルポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで他の設定に変更できます。(➔ 91ページ)

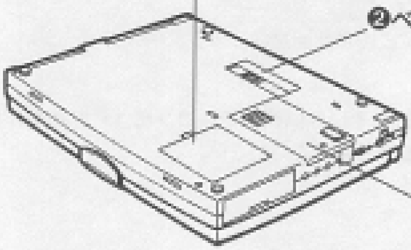
❿外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(➔ 82ページ)

⓫フロッピーディスクコネクタ

フロッピーディスクドライブユニットを接続することができます。(➔ 44ページ)

底面



❶拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(→ 76ページ)

❷ベースステーション用コネクタ

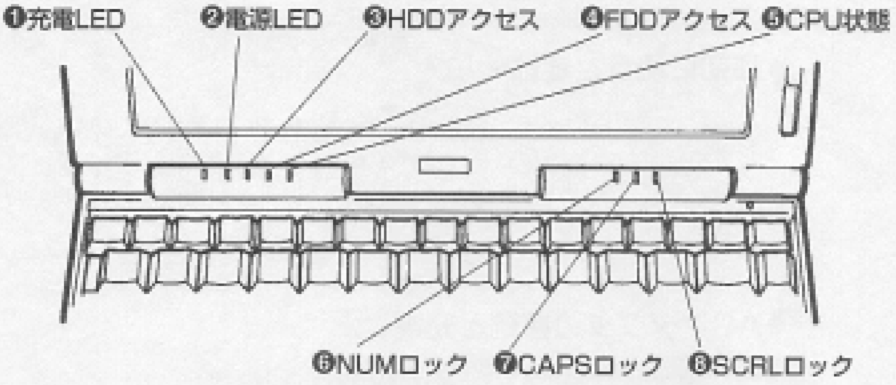
ベースステーションと接続するときに使用します。(→ 104ページ)

❸内蔵FAXモデム用スロット

別売の内蔵FAXモデムを取り付けるためのスロットです。(→ 72ページ)

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



❶充電LED	充電の状態を表示します。(➜ 27ページ)
❷電源LED	電源の状態を表示します。(➜ 27ページ)
❸HDDアクセス	ハードディスク、またはCD-ROMドライブへのアクセス中に点灯します。
❹FDDアクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセス中に点灯します。
❺CPU状態	CPUのスピードに応じて色が変化します。通常のスピードで動作しているときは緑色に点灯します。CPUスピードが「LOW」に設定されているときはオレンジ色に点灯します。
❻NUMロック	NumLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でニューメリックキー(テンキー)が使えます。
❼CAPSロック	CpLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態でシフトキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。
❽SCRLロック	ScrLKキーがロック状態のときに点灯します。この状態での機能は、アプリケーションにより異なります。

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

4 ACアダプタの接続とバッテリの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリパックを使う方法の2通りあります。

最初に使うときは・・・

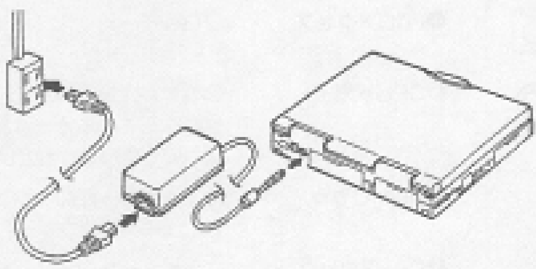
バッテリがフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷され、バッテリパックには絶縁紙がはさまれています。最初に、お使いになるときは、28ページ「バッテリパックの交換」をお読みの上、絶縁紙を取り外してから充電を行ってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、お買い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

⚠注意 **付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。**

1 ACアダプタのプラグを、本体の後ろのDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、充電LEDが緑色に点滅し、充電が始まります。



2 充電LEDの点滅が終わったら充電は終わりです。バッテリのみでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。
(充電が終わると、電源がONのときは緑の点灯、電源がOFFのときは消灯になります。)

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

本製品に添付のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外などでもお使いになれます。(海外で使うときは、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note 充電時間について

全く充電されていない状態からフル充電されるまでには、電源がONのときは約16~24時間、電源がOFFまたはサスペンド状態のときは約2~3時間かかります。

充電LEDの意味

消灯	ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。また、充電に適した温度条件を超えているなど、これ以上充電できない状態にあります。
緑色の点灯	バッテリが100%~50%充電されている状態
黄色の点灯	バッテリが49%~25%充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリが24%~10%充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが充電されていないか、9%~1%充電されている状態
緑色の点滅	現在充電中です。

電源LEDの意味

消灯	電源がOFFの状態です。
黄色の点灯	ACアダプタで動作しています。
黄色の点滅	ACアダプタで動作しており、サスペンド中です。
緑色の点灯	バッテリで動作しています。
緑色の点滅	バッテリで動作しており、サスペンド中です。

バッテリ残量が少なくなったときは・・・

バッテリ残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

バッテリ残量10%未満 ▶ CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化
約24秒おきに警告音が鳴る。

バッテリ残量5%未満 ▶ 強制的にサスペンド状態に入るか、または警告音だけを鳴らすか(約8秒おきに鳴る)を選択できます。(➔ 98ページ)

警告が発せられたら・・・ ●ACアダプタを接続して充電する
●充電済みのバッテリパックと交換する

⚠注意 **バッテリパックは、バッテリ動作中に交換することはできません。必ず28ページの説明にしたがって交換してください。**

⚠注意 **バッテリの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが消えるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリがすべて無くなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。CPU状態表示LEDがオレンジ色に変化し、ビープ音が鳴ったらすぐにデータをセーブしてください。**

Note **バッテリを節約するには・・・**

・使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
・パワーマネージメント機能を活かす。特にグローバルスタンバイ機能を有効にしておくと効果的です。(97ページ)
・サスペンド機能を有効にする。(42ページ)
・なるべく、ハードディスクにアクセスしないようにする。

Note **リチウム電池について**

本製品は、バッテリパックの他にリチウム電池が内蔵されています。コンピュータ内部の時計やシステムコンフィグレーションなどの内容は、リチウム電池によって保持されていますので、バッテリパックを取り外してもこれらの内容が消えることはありません。

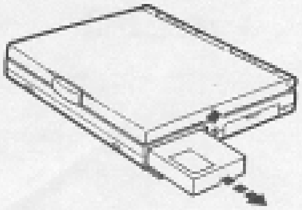
バッテリパックの交換

⚠注意 付属のバッテリパック以外のバッテリは絶対に使用しないでください。また、バッテリパックの分解や破壊、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。爆発したり火災を起こすおそれがあります。

2ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

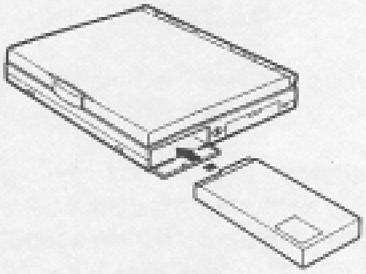
バッテリパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時かACアダプタで電源を供給しているときしかできません。
電源LEDが緑色に点灯しているときは、バッテリパックの交換はできません。

1 バッテリパック取り出しボタンを、図の矢印の方向にスライドさせながらバッテリパックを引き抜きます。



2 本製品を初めて使うときはここで絶縁紙を取り除きます。

3 交換用のバッテリパックの端子面が奥に入るようにして、ゆっくりとスロットに差し込みます。ここで取り出しボタンがロックされているのを確認してください。



Word サスペンド

サスペンド機能とはアプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存し、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させる機能です。使っているアプリケーションを終了させることなく作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションを起動しなおす必要がありません。ただし、サスペンド状態であっても、少量の電力が消費されていますので、バッテリを使っているときに長時間この状態のままにしておくことはお勧めできません。この機能はWindows95®のスタートボタンをクリックしたときに表示されるメニューから「サスペンド」を選ぶことで実行されます。(42ページ)

4 確実に装着されているのを確認します。

バッテリ容量インジケータ

バッテリパックには、バッテリ容量を確認することができるインジケータが付いています。バッテリ容量を確認するには横にあるボタンを押します。点灯状態とバッテリ容量は次の通りです。

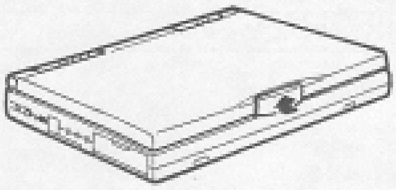
緑色の点灯	ACアダプタを使用しているか、バッテリが100%~50%充電されている状態
黄色の点灯	バッテリが49%~25%充電されている状態
オレンジ色の点灯	バッテリが24%~10%充電されている状態
オレンジ色の点滅	バッテリが充電されていないか、9%~1%充電されている状態
消灯	バッテリの交換が必要です。

5 電源のON/OFFとリセット

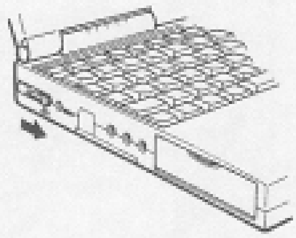
電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。サスペンドさせる場合は42ページをお読みの上、設定を変更してください。

電源のON/OFF

1 本体の前面にあるノブを押してカバーを開いてください。



2 本体の左側面にある電源スイッチを手前にスライドさせます。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを手前にスライドさせます。
または、Windows®95から[Windowsの終了]を選択したときに表示される[Windowsの終了]ダイアログボックスから[コンピュータの電源を切れる状態にする]をチェックして[はい]を選択しても、自動的に電源がOFFになります。



お買い上げ後初めて電源をONにしたときは、Windows®95セットアッププログラムが起動します。グライドポイントの使いかた(➜32ページ)を覚えてから、セットアップを実行(➜33ページ)してください。

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

Note 電源LEDの意味

消灯 :電源がOFFの状態です。
黄色の点灯 :ACアダプタで動作中
黄色の点滅 :ACアダプタで動作中(サスペンド状態)
緑色の点灯 :バッテリで動作中
緑色の点滅 :バッテリで動作中(サスペンド状態)

Note 充電LEDの意味

消灯 :ACアダプタから電源が供給されていないか、バッテリが充電されていない状態、バッテリパックが正しく装着されていない状態です。
緑色の点灯 :100%~50%充電済み
黄色の点灯 :49%~25%充電済み
オレンジ色の点灯 :24%~10%充電済み
オレンジ色の点滅 :9%~1%充電されている状態
緑色の点滅 :現在充電中

コンピュータをリセットする

新しいドライバを組み込んだり、周辺機器を追加したときなどは、それらを認識させるためにコンピュータを再起動させる必要があります。
通常、Windows®95の場合は、ドライバを組み込む時や周辺機器を追加してハードウェアウィザードを実行するときなどに再起動を促すメッセージが表示され、[OK]もしくは[はい]をクリックすることで再起動させることができます。
また、[スタート]メニューからWindows®95を終了させるときに「再起動」を選んで再起動させることもできます。
再起動させるには、このような方法以外にも、ソフトウェアリセットとハードウェアリセットの2通りの方法があり、それぞれの状況に応じてどちらかを実行します。

⚠注意 **むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが残ったままになる場合があります。**

ソフトウェアリセット

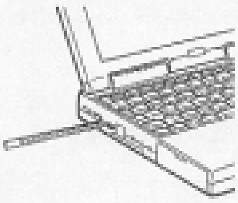
新しいドライバを組み込んだり、MS-DOSモードでの使用時にAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSを書き換えるなど、おもにソフトウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行ってリセットさせます。

[Ctrl]と[Alt]と[Delete]キーを同時に押す

ハードウェアリセット

新たに周辺機器を接続するなど、おもにハードウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行ってリセットさせます。

図の位置にある、リセットスイッチをボールペンの先などで押す。



リセットするとWindows®95が再起動します。

⚠注意 **リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。**

⚠注意 **サスペンドの実行中にハードウェアリセットを行うと、保存されていないデータは消えてしまいます。**

1 スタートアップガイド

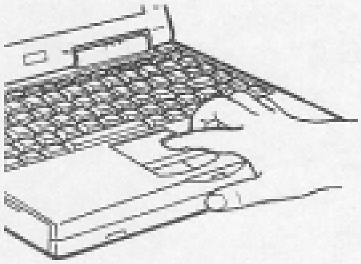
6 グライドポイントの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。Windows®95では、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

⚠注意
- ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- 2本以上の指や手袋をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。
- ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を傷める原因となります。

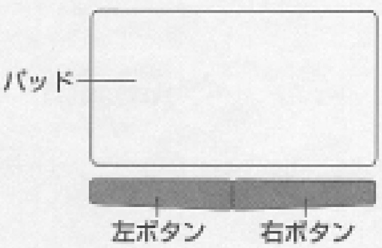
画面のポインタを動かすには・・・

グライドポイントは、本製品のキーボードの手前中央にあります。グライドポイントのパッドに指を触れて軽く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。



クリック、ダブルクリック、ドラッグするには・・・

クリックとは、ボタンを1回押すことです。パッド上を1回たたくことでもクリックできます。ダブルクリックとは、ボタンを2回押すことです。パッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。
ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを1回押しながら（パッドを1回たたき）指をパッドから離さず動かしていきます。



7 Windows®95をセットアップする

お買い上げ後初めて電源をONにしたときには、まだ、Windows®95が使える状態にはなっていません。お使いになるには、Windows®95をセットアップする必要があります。
パソコンの電源をONにする前に、フロッピーディスクドライブユニットを本体に接続してください。電源をONにし、メモリーチェックが終わるとWindows®95セットアッププログラムの画面が表示されます。次の手順で、セットアップを行ってください。

⚠注意 **再インストールに必要な各種ドライバー、TranXit2ディスクおよび95セットアップ起動ディスクを必ず作成してください。**
各種ドライバーのバックアップ用のラベルは、添付ラベルをご使用ください（各ドライバーの名称は記載されていません）。
また、Windows®95の起動ディスクのバックアップにもご利用ください。
フロッピーディスクが接続されていない状態でセットアップを行うとエラー表示されます。その際は、パソコンの電源を一度OFFにした後、フロッピーディスクを接続し、再度セットアップを行ってください。

1 セットアップの初期画面が表示されます。[↵]キーを押してください。

2 ユーザー情報を登録します。名前を入力して[Tab]キーを押し、会社名を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

3 ライセンスについての説明が表示されます。読み終わったら[次へ>]をクリックします。

4 使用許諾契約書が表示されます。読み終わったら[同意する]のところにポインタをのせてクリックし、[次へ>]をクリックします。[同意しない]を選ぶとセットアップできません。

5 「Windows®95パッケージ」に添付されている「Certificate of Authenticity」のバーコードの上に記述されている「Product ID」を入力します。入力が終わったら[次へ>]をクリックします。

6 コンピュータの環境設定を行います。[次へ>]をクリックします。

7 デバイスのインストールが始まります。設定には数分かかります。
「コピー完了」と表示されたら[完了]をクリックします。

8 セットアップ完了のメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

9 再起動され、Windows®95の起動画面が表示されます。

10 ハードウェアとプラグアンドプレイ機器の設定が行われます。設定には数分かかります。

11 各種の環境設定が順に行われます。

(コントロールパネル→[スタート]メニュープログラム→Windowsヘルプ→MS-DOSプログラム→Microsoft Exchange)

12 [プリンタ ウィザード]画面が表示されます。

・本製品に接続できるプリンタをお持ちの場合は[次へ>]をクリックし、ウィザードの指示にしたがってプリンタをインストールしてください。

・プリンタが無い場合は[キャンセル]をクリックします。



13 [日付と時刻のプロパティ]画面が表示されます。

[タイムゾーン]で、本製品を使用する場所を設定します。日本国内でお使いのときは変更する必要はありません。



14 [日付と時刻]のタブをクリックします。

Note 急に画面が真っ暗になったら・・・

一定の時間キーを押さない状態が続くと、急に画面表示が消えることがあります。
これは、パワーセービング機能を設定しているときにパワーセービング状態に入ったことにより画面が消えたもので故障ではありません。何らかのキーを押すと元の表示に戻ります。

パワーセービング機能の設定については、96ページ「パワーセービング機能の設定」をお読みください。

⚠注意 カレンダと時計が間違っていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違って記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。

15 日付と時刻を合わせます。



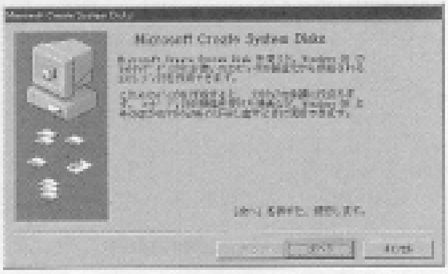
16 設定した日付と時刻に間違いないかどうか確認し、[更新]をクリックします。
何も変更していない場合は[更新]は表示されません。[閉じる]をクリックしてください。

17 [OK]をクリックします。

Note **画面を見やすく調整しましょう**

LCD画面の右側にあるノブをスライドさせて、液晶画面の輝度を見やすくなるように調整してください。

18 Microsoft Create System Disks作成画面が表示されます。
すべての項目のバックアップを行います。なお、ディスクの作成はセットアップ終了後でも実行できます。(➔ 37ページnote)



19 作成するディスクセットを選択する画面が表示されます。まずCD-ROMセットアップ起動ディスクを作成します。
【95セットアップ起動ディスク(CD)】が選択（反転表示）されているのを確認し、[次へ>] をクリックします。

20 1枚目のフロッピーディスクに、[マイクロソフトウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク] と書かれたラベルを貼り、フロッピーディスクドライブユニットにセットします。セットしたら、[次へ>] をクリックします。

21 フォーマットされていないディスクや、データが入っているディスクがセットされているときは、フォーマットしてもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいときは、[はい]をクリックします。
コピーが完了したら、[次へ>]をクリックして、フロッピーディスクを取り出してください。

22 手順19～21と同様にフロッピーディスクを入れ替え、以下のバックアップを作成してください。作成したバックアップ用フロッピーディスクには、付属の汎用ラベルにディスク名を記入して、貼り付け大切に保管してください。
- WinBook Birdドライバーディスク
- Glid Pointドライバーディスク
- C&T VGAドライバーディスク
- ESSサウンドドライバーディスク
- TranXit2
- 95セットアップ起動ディスク

23 [次へ>]をクリックすると、手順18の画面に戻りますので、[キャンセル]をクリックします。

Note

95セットアップ起動ディスク(CD)と、95セットアップ起動ディスクの違い

95セットアップ起動ディスク(CD)は、Windows®95を再インストールするときに使用します。このディスクには、付属の「マイクロソフトウィンドウズ95 CD-ROMセットアップ起動ディスク」と書かれたラベルを貼り付けて大切に保管してください。

95セットアップ起動ディスクは、Windowsが正常に起動しなくなったときに診断プログラムを実行し問題修復を行うためのディスクです。このディスクには、付属の汎用ラベルに「95セットアップ起動ディスク」と書いた後、貼り付けて大切に保管してください。

⚠注意　Windows®95、各種ドライバおよびTran Xit2の再インストールについては、Windows®95の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読み下さい」をご覧下さい。
「始めにお読み下さい」に書かれているとおりにドライバーなどのインストールを行わないと、Win Book Birdの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

24 システムディスクの作成を促すメッセージの表示をどうするか設定します。
システムディスクを作成しなかったときは、システムディスクの作成を促すメッセージがWindows®95の起動時に表示されます。
▼ボタンをクリックして、メッセージの表示回数を設定してください。



25 [完了]をクリックします。

26 コンピュータが再起動されます。
Windows®95の起動画面に続いてデスクトップ画面が表示されます。

27 「Windowsへようこそ」では、Windows®95の機能や使いかたなどを知ることができます。この画面を閉じるときは[閉じる]をクリックします。

Note　あとでディスクを作成するときは

[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】－【アクセサリ】－【システムツール】－【Create System Disks】を選ぶと、Microsoft Create System Disks作成画面が表示されます。
手元にフロッピーディスクが無い場合などは、Microsoft Create System Disks作成画面で[キャンセル]をクリックし、一度セットアップを終了してからディスクを作成してください。

Note　Windows®95が起動しなくなったときは

間違ったシステム設定を行ったり、前回Windows®95が異常終了したときなどは、正常に起動できなくなることがあります。このとき、「Starting Windows95」と表示されている間に[F8]キーを押すと表示される起動メニューでSafeモードを選択すると、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。詳しくはWindows®95のマニュアルをお読みください。

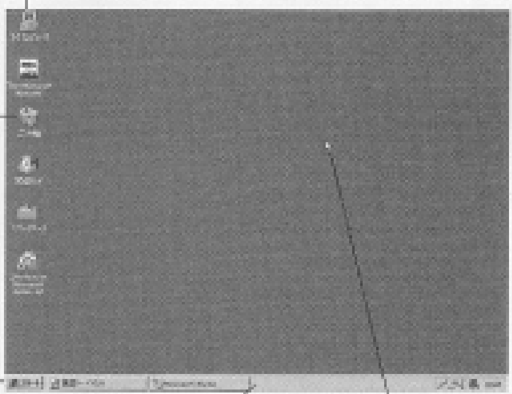
8 Windows®95の使いかた

Windows®95は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを操ることができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへの文字や画像のコピーも簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行できます。

ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®95の基本的な操作方法について説明します。詳しい使い方については、付属のWindows®95のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

Windows®95の画面について

マイコンピュータアイコン
ドライブのアイコンが表示され、中にあるファイルやフォルダを見ることができます。



ごみ箱アイコン
削除したファイルやフォルダを一時的に保管しておく場所です。

スタートボタン
クリックすると階層メニューが現われ、アプリケーションを実行したり、様々な設定を行なうコントロールパネルやファイルを操作するエクスプローラなどを起動できます。
(➔40ページ)

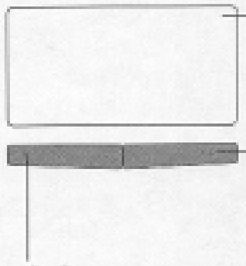
タスクバー
実行されているアプリケーションを切り替えることができます。右端には時計などが表示されています。
(➔40ページ)

ポインタ
アイコンやメニューなどを選んだり、ウィンドウをの位置や大きさを変えることができます。
(➔41ページ)

電源をONにするとWindows®95の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®95では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行います。

クリックとダブルクリック

Windows®95の世界では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、ポインタ(マウスカーソルともいいます)を使って行い、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。
クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グ ライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。



パッド
指を触れて動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きます。

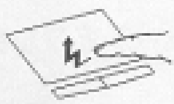
右ボタン
右クリックするときに押します。
Windows®95では、右クリックするとショートカットメニューが表示されます。

左ボタン
左クリックするときに押します。クリックは2種類あります。

●クリック・・・・・・パッドを1回たたくこと（またはボタンを1回押すこと。メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ワープロなどで文字入力の位置を決めるのに使います。



●ダブルクリック・・・パッドを2回たたくこと（またはボタンを素早く続けて2回押すこと。アイコンを選んでアプリケーションを起動するときや、なにかの処理を実行するときに使います。



ドラッグ & ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだたままの状態で別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。

ボタンを離すとドロップされ、ごみ箱の中に入る

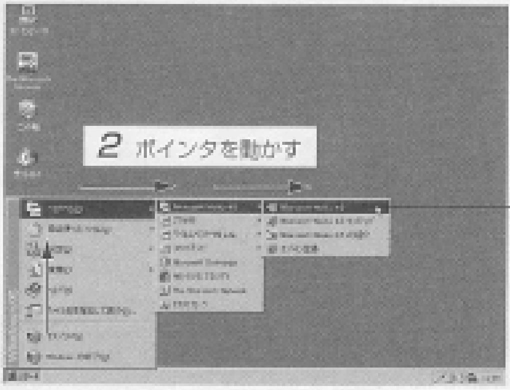


左ボタンを押したまま動かす



アプリケーションを起動する

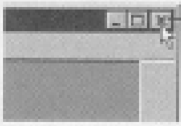
アプリケーションを起動するには、スタートボタンをクリックすると現われるスタートメニューを使います。（スタートメニューはキーボードからWindowsキーを押すことでも、表示されます）
マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。



3 起動するアプリケーションの上でクリック

1 [スタート]ボタンをクリック

アプリケーションを終了する



[閉じる]ボタンをクリック

アプリケーションを切替える

実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一番前に表示させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示して使えるようにするにはタスクバーを使います。

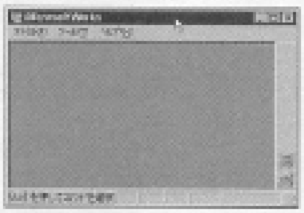


アクティブにするアプリケーションのボタンをクリック

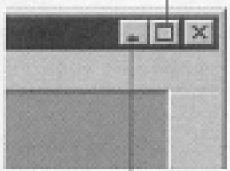
ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で動かしたい方向に指を動かします。



ウィンドウの大きさを変える

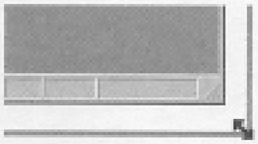


[最大化]ボタンをクリック
画面いっぱいに表示します。元の大きさに戻すときは 🗗 ボタンをクリックします。

[最小化]ボタンをクリック
ウィンドウを閉じます。終了とは異なり、アプリケーションは実行されており、タスクバーのボタンをクリックすることで再び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に変える

ウィンドウの枠にポインタをのせて、左ボタンを押したままパッド上で指を動かしてドラッグさせると、ウィンドウの大きさを自由に変えることができます。
(最大化の状態では、変えることはできません。)



Note　外部マウスを接続したときの設定

グライドポイントとPS/2マウスは同時に使用することができません。どちらを使用するかはシステムコンフィグレーションの【Components】-【GlidePoint】の設定で切り替えます。デフォルトはグライドポイントが有効ですので、PS/2マウスを使用するときは無効にしてください。

外部PS/2マウスを接続するときは、添付のスプリッタが必要です。

9 サスペンド機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

サスペンド機能の設定

本製品には、Windows®95のスタートメニューから［サスペンド］を実行することで現在の状態をメモリに保存して電源をOFFにし、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる「サスペンド機能」が搭載されています。
この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロを一旦終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。
出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押したときに電源がOFFになるように設定されています。このとき、サスペンドさせる場合は、次の手順で設定を変更してください。

1. BIOSのパワーマネージメントメニュー(→ 94ページ)で、【EnablePowerSaving】にチェックを入れます。
2. Windows®95を起動すると「コントロールパネル」フォルダ内に「パワーマネージメント」のアイコンが登場します。
3. 「パワーマネージメント」のアイコンをダブルクリックし、「パワーマネージメント(P):」表記の下にある「標準」「詳細」「オフ」の中から「詳細」を選択します。
4. 「[スタート] メニューの［サスペンド］コマンドの表示」の中で「常に表示(Y)」のラジオボタンをONにします。
5. ［OK］ボタンをクリックします。
6. 電源を一度OFFにし、起動しなおします。

Note サスペンド機能とレジューム

サスペンド状態から再度電源をONにし、作業を中断した状態まで復帰することを、レジュームといいます。

Note スタートメニューからサスペンドさせる

上記の設定を行うと、Windows®95の[スタート]ボタンをクリックすると表示されるメニューに[サスペンド]が追加されます。これを選ぶと、電源スイッチをOFFにしなくても、すぐにサスペンド・レジュームさせることができます。

スピーカの音量の調節

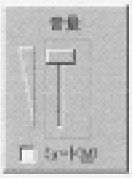
本体には、モノラルスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

Windows®95でスピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの 🔈 を左クリックする



つまみをドラッグして調節する(「ミュート」をチェックすると音声が消えます)



Windows®95で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

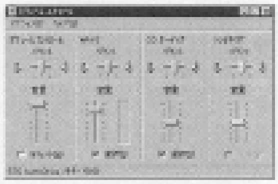
タスクバーの 🔈 を右クリックする



[音量の調節]を左クリックする

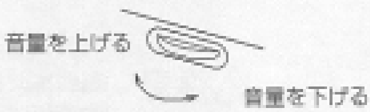


ボリュームコントロール(ミキサー)の各音源のつまみをドラッグして調節する



ボリュームノブで音量を調節するとき

本体左側面のボリュームノブで調節します。
PCカードと内蔵モデムの発信音は、このボリュームで調節します。



使用するアプリケーションおよびPCカード、モデムカードによっては別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調節してください。

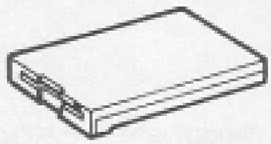
10 フロッピーディスクドライブユニットを取り付けるには

本製品には、フロッピーディスクドライブユニットが付属しています。
ここでは、フロッピーディスクドライブユニットの取り付けと取り外しの方法について説明します。

フロッピーディスクドライブユニットとは・・・

フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときに使用します。

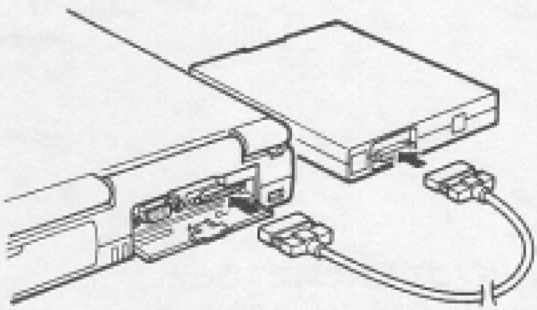
フロッピーディスクからデータを読み出したり、アプリケーションをインストールするとき、フロッピーディスクにデータを保存するときは・・・ ▶



⚠注意 アクセスランプが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データが破壊するおそれがあります。

取り付けるには

付属のFDDケーブルを使って、フロッピーディスクドライブユニットを外付けにします。



⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で接続することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFにしてください。(➔ 98ページ)

取り外すには

⚠注意　取り外しの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFにしてください。(➔ 98ページ)

⚠注意　フロッピーディスクドライブユニットを外付けで使用する場合、フロッピーディスクドライブユニットの上にものを載せたり、衝撃を加えないでください。故障の原因となります。

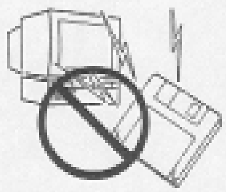
11 フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブユニットが付属されています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

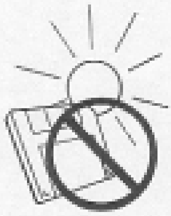
フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。
また、フロッピーディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

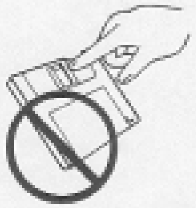
⚠ 注意



テレビやモータのような、磁気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、高温の場所に置かないでください。また、湿度の高いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。



ラベルは、正しい位置(一段へこんでいます。)にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

Note 読み書きできるフォーマットは?

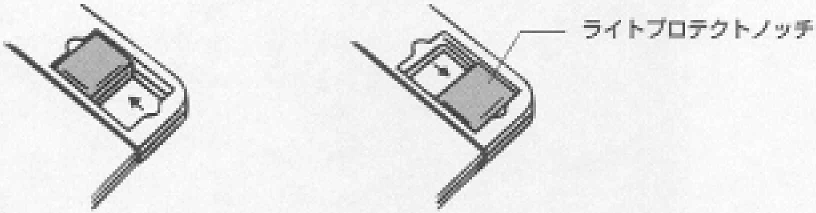
出荷時のままの状態では、2DD(両面倍密度倍トラックタイプ)の720KB、2HD(両面高密度倍トラックタイプ)の1.44MB・1.2MBの各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

Note 1.2MBでのフォーマットは？

1.2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライバ(出荷時インストール済み)はリード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行えません。また、1.2MBのディスクから起動することもできません。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違って保存しているデータを消したり、上書きされないように、書き込みを禁止(ライトプロテクトといいます)することができるようになっています。
ライトプロテクトを行うにはフロッピーディスクの裏側(金属の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。

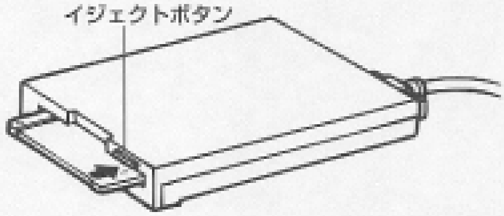


書き込み可能状態　　　　書き込み禁止状態

●書き込み禁止ノッチが"上側"になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができます。
●書き込み禁止ノッチが"下側"になっていると(四角い穴が開いている状態)、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上側にし、シャッターのあるほうを先にドライブの中に挿入します。
フロッピーディスクが正しくセットされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。



フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。
フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

MEMO

第2章

キーボード操作になれよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作になれていない方は必ずお読みください。

1 キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行う役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードには色はついていません。

文字入力キー

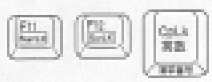
主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CpLk][Shift][NumLk][ひらがな カタカナ]([ひらがな カタカナ]は同一のキーです)の各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、55ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(薄いアミの部分)

文字入力キーと組み合わせて使うキーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。

Note キーのロック状態について

キーには、1回押すごとに状態が固定され、ロック状態になるキーと、固定されずに押したときだけ機能するキーの2通りあります。
ロックされるキーの中でも右の3種類のキーは、ロック状態になるとステータスLEDが点灯します。



システムファンクションキー(濃いアミの部分)

制御キーの一つである[Fn]キーと、ファンクションキーの組み合わせにより、表示をLCD表示にするか、CRT(外部モニタ)表示にするかを切り替えることができます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

LCD表示かCRT(外部モニタ)表示かを切り替える

[Fn] + [F5] 1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります

ディスプレイについては、82ページをお読みください。

アプリケーションキー

グライドポイントの右ボタンに相当する機能があります。使用するアプリケーションによって、動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

Windowsキー

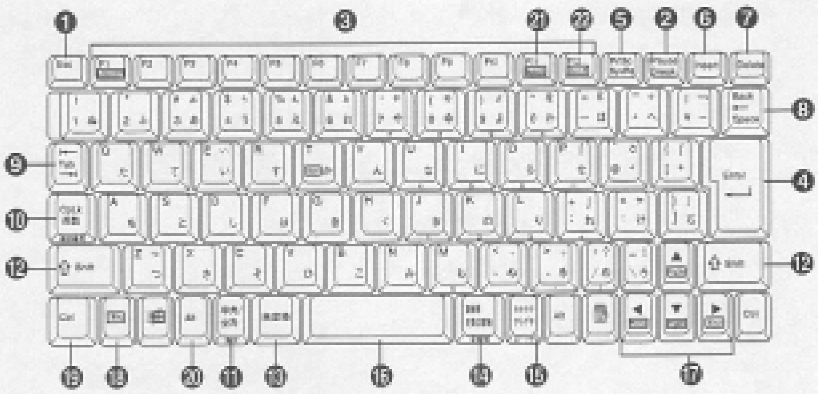
単独で押すとWindows95「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows95の代表的な機能がすぐに使えます。

キー	機能
+[F1]	Windows95のヘルプを表示
+[Tab]	タスクバーに表示されているボタンの切り替え
+[E]	エクスプローラの起動
+[F]	ファイル検索起動
+[Ctrl]+[F]	コンピュータの検索画面表示
+[M]	ウィンドウの最小化
+[R]	「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを表示
+[Pause]	「システムのプロパティ」ダイアログボックスを表示

Note Windows95でサポートされないキーについて

文字入力キーのうち、£、々、¬、¢、『、』、ヶの7つの記号はキーボードから入力できません。これらの文字については、日本語入力システムの文字パレットなどの機能を使い、文字を入力してください。なお、〜の文字は[Shift]+[ ] で入力できます。

各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

❶ESC(エスケープ)キー

設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。

❷Pause Break(ポーズ・ブレーク)キー

実行されているものを中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能を呼び出すときに使います。

❸ファンクションキー

F1から F12までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

❹Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行させることができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®95の画面を取り込むのに使います。

❺PrtSc(プリントスクリーン)キー

Windows®95を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

❻Insert(インサート)キー［ロックされます］

文字入力のモードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の横に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字に上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

❼Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

❽Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

❾Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。Shift+Tabキーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

❿CpLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。Shiftキーと同時に1回押すごとに、「大文字モード」と「小文字モード」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⓫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。1回押すごとに、「半角モード」と、「全角モード」が切り替わります。また、Altキーを押しながらこのキーを押すと「日本語入力モード」になります。

⓬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「大文字モード」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⓭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換しないときに押します。

⓮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換するときに押します。

⓯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「カタカナモード」と「ひらがなモード」を切り替えます。「カタカナモード」のときはこのキーのみ、「ひらがなモード」のときはShiftキーと同時に押すと切り替わります。また、CtrlShiftキーと同時に押すとカナキーのON／OFFを切り替えることができます。

⓰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース（空白）を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⓱カーソルキー

通常、キーに表記されている三角印の方向にカーソルを移動するときに使います。また、Fnキーと同時に使うと、ページ切り替えキー(PgUp/PgDn)、Home(ホーム)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⓲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に枠囲みで表記されている機能を使うときに、そのキーと同時に押します。

⓳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより特定の動作をさせることができます。

⓴Alt(オルト)キー

オルタネートキーともいい、文字入力キーや他の制御キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

Fn(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能やカーソルの動きを変えることができます。

㉑NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】

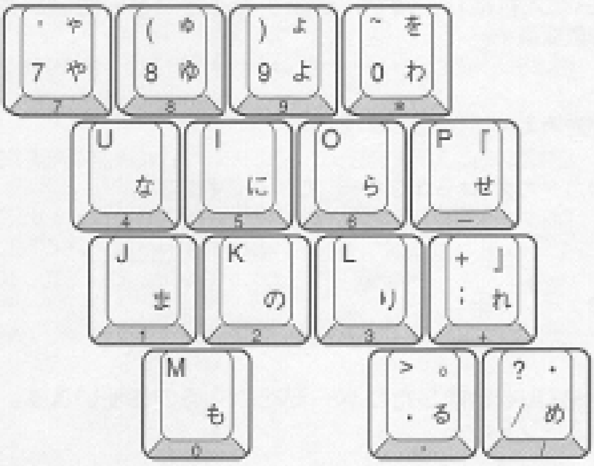
Fnキーと同時に押すと、キーボードの右半分の部分を数字キーとして使えるようになります。この状態をニューメリックキーパッドといいます。

㉒ScrLk(スクロールロック)キー【ロックされます】

キーを押したときの動作は各アプリケーションにより異なりますが、通常、Fnキーと同時に押すと、カーソルキーの動きを変えることができます。

テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、Fnキーと同時にNumLkキーを押すことにより、図の部分(ニューメリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができるので便利です。



Note 電源ONのままカバーを閉じると

サスペンドが有効になっているときに、電源をONのままカバーを閉じると、サスペンド状態に入ります。(➔ 99ページ)

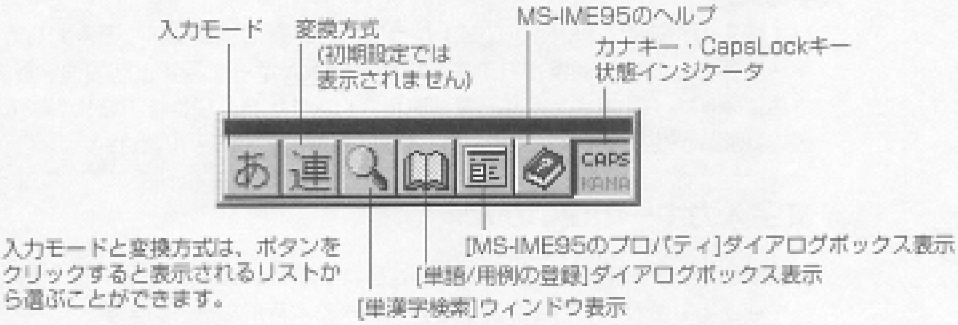
2 文字を入力する

キーボードから文字を入力する方法について説明します。ここでは、本製品にインストールされている日本語入力システム MS-IME95を例に説明しています。別の日本語入力システムをお使いのときは、お手持ちのマニュアルをお読みください。

入力方法について

Windows®95起動直後は何も表示されていませんが、デスクトップ上をクリックすると日本語入力システム(IME)のツールバーが現われます。「A」と表示されている状態(直接入力モード)では、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボードに表記されている記号だけしか入力することができません。左端の「A」と表示されているボタンをクリックして入力モードを選ぶか、次のように操作をするとツールバーに各ボタンが表示され、全角の文字や漢字を入力できるようになります。

[Alt] キーを押しながら [半角/全角] キーを押す



ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときはKとAを続けて押すことで「か」が入力できます。
かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。
たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。
どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME95のプロパティ]の中で設定します。

また、ローマ字入力のときに[Ctrl]と[英数]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力のときは、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

・入力前に文字の種類を決めておく‥切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する

・入力後に文字の種類を決める‥‥‥全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F6]～[F10]キーで希望の文字種に変換する

モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	あ	[ひらがな]	[F6]
全角カタカナ	ア	[Shift] + [カタカナ]	[F7]
半角カタカナ	ｱ	[Shift] + [カタカナ][半角/全角]	[F8]
全角英数	Ａ	[英数]	[F9]
半角英数	A	[英数][半角/全角]	[F10]

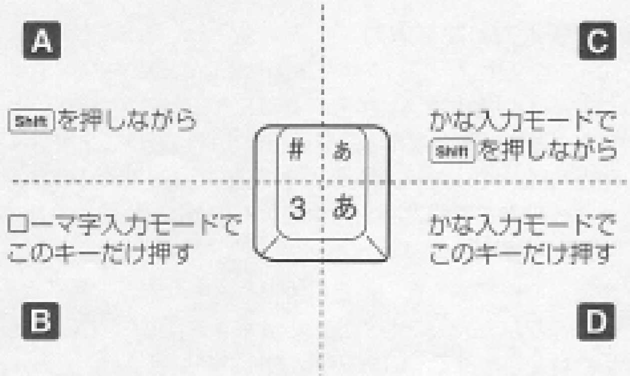
※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、半角カタカナ・半角英数から全角文字に切り替えるときは[半角/全角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。詳しい操作方法については、付属のWindows®95マニュアルのMS IME95の項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[CpLk][Shift][NumLk][ひらがな][カタカナ]の各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



文字		画面表示	切替キー	入力キー
大きいひらがな(あ、い、う)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	文字キー D
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A
小さいひらがな(っ、ゃ、ゅ、ょなど)				
カナ入力		あ	[ひらがな]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		あ	[ひらがな]	文字キー A の前に[X]
大きいカタカナ(ア、イ、ウ)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー D
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A
小さいカタカナ(ッ、ャ、ュ、ョなど)				
カナ入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	[Shift]+文字キー C
ローマ字入力		ア ア	[Shift]+[カタカナ]	文字キー A の前に[X]
アルファベット小文字(a、b、cなど)＊1				
ローマ字入力		A A	[英数]	文字キー A
アルファベット大文字(A,B,Cなど)＊1				
ローマ字入力	1文字ずつ入力	A A	[英数]	[Shift]+文字キー A
	連続して入力	A A	[Shift]+[英数]	文字キー A
かな記号(。、，・，「」など)				
カナ入力・ローマ字入力		あ ア ア	[ひらがな]	記号キー A B C
英記号(! ,@ ,# ,$,% ,^ ,& ,*など)＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		[Shift]+記号キー A B C
数字＊1				
ローマ字入力		あ ア ア A A		数字キー B ＊2

＊1　カナ入力の場合は、カナキーをOFFに切り替えてから入力します。

＊2　[Fn]キーと同時に[NumLk]キーを押すことにより、キーボード右半分のテンキーキーパッドを使って数字を入力することができます。

Note　大文字/小文字モードに固定するには

[Shift]キーを押しながら[CpLk]キーを1回押すと、「CAPSロック」がON・OFFされ、大文字固定入力(ON)と小文字固定入力(OFF)が切り替わります。ON・OFFの状態は、本体のステータスLEDか、ツールバーのインジケータに示されます。

Note　1文字単位で大文字/小文字を切り替えるには

[Shift]キーを押しながらアルファベットキーを押すと、固定入力のモードとは逆の文字を入力することができます。例えば、大文字モードで[Shift]キーと[A]を同時に押すと「a」を入力できます。

MEMO

第3章

マルチメディアを楽しもう

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能の使いかたなどについて説明しています。

1 サウンド機能を使う

本製品には、16ビットサウンドブラスタPRO互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはモノラルスピーカが内蔵されています。 このスピーカからは次の6種類の音源からの音声を出力することができます。

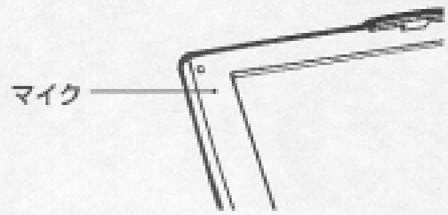
それぞれの音源は、Windows®95のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることができます。

本体のボリュームノブでも調節できます。

PCスピーカ	コンピュータに標準で装備されている"ビープ音"を発生する音声です。
PCカード	PCカードから発生する音声です。 音声出力機能を搭載しているPCカードを装着し、音声を出力する設定になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードなど)
内蔵モデム	発信音です。
デジタルサウンド機能	16ビットDAコンバータを使用したサウンド回路からの再生音声、および、FMシンセサイザ音源から出力される音声です。
マイク入力	内蔵マイクやマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。
MIDI	外部のMIDIシンセサイザと接続することでMIDI再生ができます。 (ベースステーションの接続が必要)

内蔵マイクについて

本体上面の左手前にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

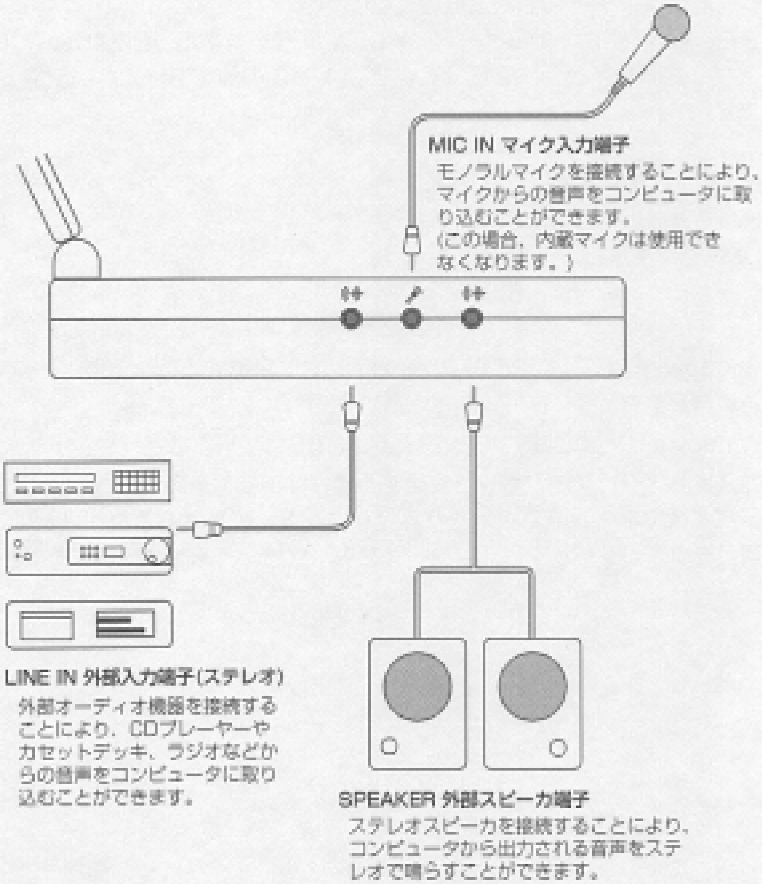


Note **音量を調節するには**

スピーカの音量は、タスクバーの をクリックし、表示されるボリュームコントロールで調節します。
また、本体のボリュームノブでも調節できます。

マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の右側面には、マイクや外部スピーカ、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



MS-DOSアプリケーション使用時

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPRO（FMシンセサイザ機能を除く）と互換があります。
ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOSやWindows 3.1用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPRO」を選択してください。
また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行えないソフトウェアもあります)

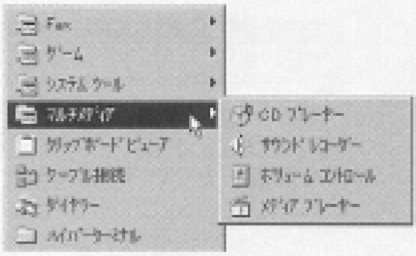
I/Oポートアドレス	:220H
IRQチャネル	:5
DMAチャネル	:0
データビット幅	:8bit

Windows®95では上記項目の値を自動的に変更するため、DOS上での設定と異なる場合があります。
Windows®95のDOSプロンプトで、DOSのゲームなどサウンドチップに直接アクセスするアプリケーションを使用する場合は、コントロールパネルのシステムの中のデバイスマネージャで表示される［サウンド、ビデオおよびゲームのコントローラ］項目をダブルクリックし、リソースを表示させ、各値を参照してください。

2 マルチメディア機能を使う

Windows®95には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】-【アクセサリ】-【マルチメディア】から起動します。



CDプレーヤー

音楽用のCDを再生するプレーヤーです。CD-ROMドライブが接続されている状態で、ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけで自動的に起動し、再生させることができます。
他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。



メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。
インストールされているWindows®95には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。



サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を編集し、録音することができます。録音したサウンドは、WAV形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されていますので、ボイスメモとして活用することも可能です。



Note Video for Windows

マイクロソフト社が開発したデジタル動画編集再生ソフトです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®95には、再生機能のみ搭載されています。

Note MIDI(ミディ)

電子楽器を外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに市販のMIDI音源(様々な楽器の音色が記憶されている)を接続し、MIDIファイル(拡張子はMID・RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を高音質で演奏させることができます。

ボリュームコントロール

マイクやLINE IN端子から入力された音声や、WAVファイル、MIDIファイルなどの音声、音楽用CDから出力される音声の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。



MEMO

第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、内蔵FAXモデムの取り付け方法、メモリやハードディスクを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

1 PCカードを使う

本体には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードを使うときの注意事項などについて説明します。

PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用することができるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。
ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。
カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。
本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

カードサイズについて

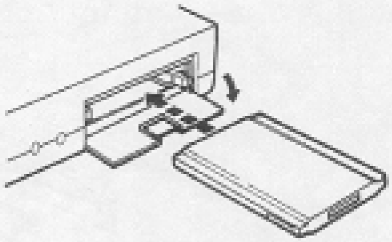
PCカードには、現在、TYPEⅠ(厚さ3.3mm)、TYPEⅡ(厚さ5.0mm)、TYPEⅢ(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。
本製品では、TYPEⅠまたはTYPEⅡのカードを2枚、またはTYPEⅢのカードを1枚装着することができます。

カードの抜き差し

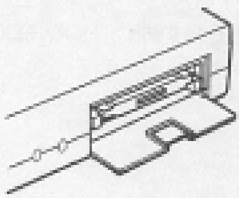
PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。
PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐに使えるようになります。
PCカードを利用するアプリケーションを実行する前にPCカードを装着しておいてください。

カードを装着する

1 カードスロットカバーを図の方向に開けます。



2 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に接続するコネクタが付いているほうを奥にして、ゆっくりと差し込みます。正しく装着されると、カードイジェクトボタンが飛び出します。



・TYPEⅢのカードの場合、スロット2(下)に差し込みます。

⚠注意　**異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。**

Note　ビープ音が鳴らないときは

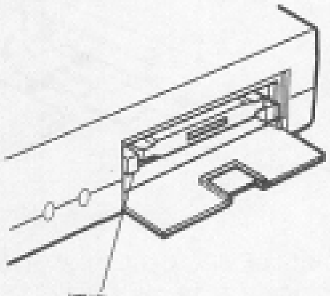
本体のボリュームノブがしぼられています。または、システムコンフィグレーションメニューの設定でスピーカの出力が無効になっています。(92ページ)

3 正しくカード用ドライバが組み込まれていれば、カードを差し込んだときにビープ音が「ピポ」と鳴ってシステムがカードを認識します。
認識できないときはビープ音が「プ」と鳴ります。
カードの接続やドライバの種類を確認してください。

カードを取り外す

1 取り外したいカードが装着されている側の、カードイジェクトボタンを押します。

2 カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。
システムの動作中に、カードが取り外されたときは、ビープ音が「ピポ」と鳴ります。



⚠注意 PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。

モデムを使う

モデムカードを使用して電話回線をつなぐと、Windows®95の通信ツールを使ってデータの送受信を行うことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

	COMポート番号	IRQ	アドレス
最初のモデムカード	3	3	3E8h
2枚めのモデムカード	4	10	2E8h

モデムを使ったアプリケーションの通信ポート、割り込みチャネル(IRQ)を設定する場合は、上記の説明にあわせて行ってください。
なお、内蔵FAXモデムが装着されているときは、2枚目のモデムカードを使用することはできません。

ハイパーターミナルを使うときの注意

ハイパーターミナルを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

・ハイパーターミナルのデフォルトポートは内蔵FAXモデム、つまりCOM2に設定されています。COM2以外の設定をデフォルトで使用したい場合は、コントロールパネルのモデムで設定してください。

Word I/Oアドレス

CPUがデータをやり取りするために使用するチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

Word IRQ

周辺機器がCPUに対して割り込みを要求するためのチャネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の周辺機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows®95ではプラグ アンド プレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

2 内蔵FAXモデムを使う

本製品には、別売の内蔵FAXモデムを取り付けるためのスロットが搭載されています。ここでは、このスロットへの内蔵FAXモデムの取り外しと取り付けの方法、および、Windows®95でのモデムのセットアップ方法について説明します。

内蔵FAXモデムについて

内蔵FAXモデムにより、本製品でデータの送受信とFAXの送受信機能が使用できます。電話回線に接続して、Windows®95や他の通信アプリケーションを起動させるだけで、簡単にパソコン通信を行うことができます。本製品で作成したデータや電子メールなどを送ったり、様々な情報を受けることが可能になりますので、本製品をさらに幅広く活用できます。

内蔵FAXモデムの設定

COMポート番号	IRQ	アドレス
2	3	2F8

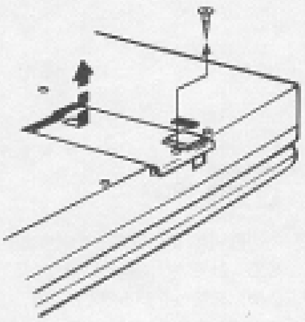
この設定は、システムコンフィグレーションの【Setup】のComponent-COM Portsで変更することができます。(➔90ページ)

⚠注意 **内蔵FAXモデムとIrDAポートは同時に使用できません。システムコンフィグレーションでどちらを使用するか設定してください。(➔90ページ)**

内蔵FAXモデムを取り付けるには

⚠注意 **取り付けの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➔94ページ)**

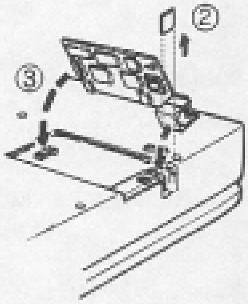
1 本体底面の内蔵FAXモデムスロットカバーのネジをプラスドライバで外してから図の方向に開けます。



4 システムを拡張する

2 モジュラージャックカバーを図の方向にスライドさせて取り外します。(モジュラージャックカバーは紛失しないように保管してください。)

3 内蔵FAXモデム本体を、図の方向にゆっくりと差し込みます。



4 モジュラージャックカバーを本体に取り付け、内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉めます。

内蔵FAXモデムを取り外すには

⚠注意 **取り外しの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→98ページ)**

1 本体底面の内蔵FAXモデムスロットカバーのネジをプラスドライバで外してから図の方向に開けます。(取付図参照)

2 内蔵FAXモデム本体を、ゆっくりと引き抜きます。(取付図参照)

3 内蔵FAXモデムスロットカバーを元通りに閉めます。 (取付図参照)

⚠注意 **内蔵FAXモデムは電気等の障害を受けやすいため、取り外した後は必ず元のパッケージに入れて保管してください。**

内蔵FAXモデムをセットアップするには

⚠注意 **内蔵FAXモデムのセットアップを始める前に、本製品の電源をOFFにし、フロッピーディスクドライブユニットを接続してください。**

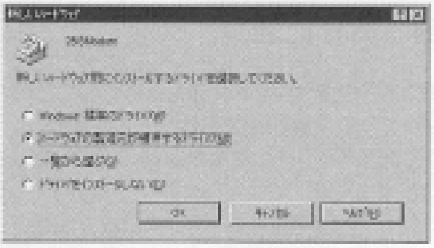
1 WinBook Birdの電源をONにします。

2 メモリチェックが終了したのを確認した後、Ctrlと Altと Sキーを同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを呼び出します。

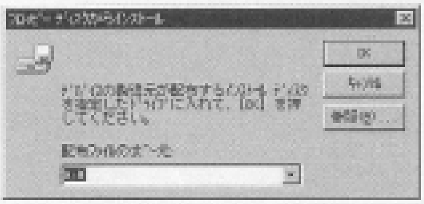
3 Components－COM Ports－Internal COMの設定は「MODEM to COM2」にします。

4 「Exit－Save and Reboot」を選び、設定を保存しシステムコンフィグレーションメニューを終了します。

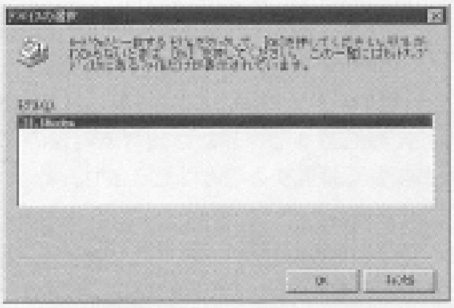
5 Windows®95を起動すると、自動的にFAXモデムのインストールが始まり、画面に次のメッセージが表示されます。
「ハードウェアの製造元が提供するドライバ（M)」を選択し、「OK」をクリックします。



6 フロッピーディスクドライブユニットに、内蔵FAXモデムに添付の、「FAXモデム ドライバーディスク」をセットし、[OK] をクリックします。



7 [デバイスの選択] 画面が表示されたら、そのまま [OK] をクリックしてください。



これで内蔵FAXモデムのインストールは完了です。

3 メモリを増設する

本製品には、16MBのシステムメモリがマザーボード上に装着されています。専用拡張RAMモジュールを増設することにより最大48MBまでメモリを使うことができるようになります。
最大48MBまでメモリを増設する場合、16MBの拡張RAMモジュールを必ず2枚セットで装着してください。

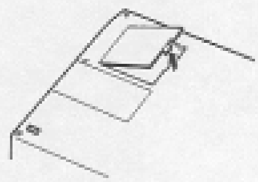
⚠注意 **専用拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。他社製のRAMモジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。**

拡張RAMモジュールの装着

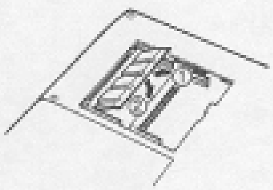
増設時には同じ容量の拡張RAMモジュールを必ず2枚あわせて装着します。
拡張RAMモジュールを1枚だけ装着する、または異なる容量の拡張RAMモジュール(例えば8MBと16MB)をあわせて装着することはできません。

⚠注意 **装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、パワーマネージメントメニューでの電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。****(→98ページ)**

1 本体底面の拡張RAMエリアのカバーを開けます。



2 拡張RAMモジュールをゆっくりと装着します。向きを間違えないようにしてください。



3 拡張RAMエリアのカバーを閉めます。

4 電源をONにすると、RAM容量が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

5 Ctrl + Alt + S を同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

6 システムが装着された拡張RAMモジュールの容量を読み込み、自動的に設定が行われます。

7 システムコンフィグレーションメニューを終了させます。

【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔86ページ)をお読みください。

4 ハードディスクドライブを交換する

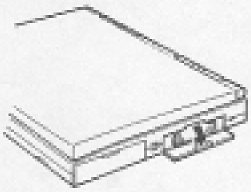
本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装着されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。
使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使いかたができます。

⚠注意　ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、振動が激しいところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

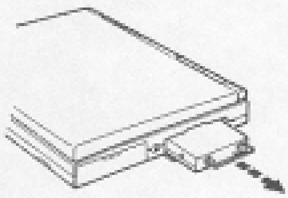
ハードディスクを取り外すには

⚠注意　交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→98ページ)

1 本体のHDDスロットカバーを開けます。



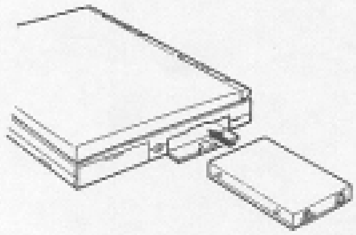
2 ハードディスクドライブの取っ手を起こして引き出します。



ハードディスクを取り付けるには

⚠注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り付けることはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(→98ページ)

1 HDDスロットカバーを開けて、ハードディスクドライブを挿入します。



⚠注意 ハードディスクドライブの上下に注意して挿入してください。
ラベル貼付側が下になります。

2 HDDスロットカバーを閉めます。

3 電源をONにすると、環境が装着前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

4 [Ctrl]+[Alt]+[S]を同時に押して、システムコンフィグレーションメニューを表示させます。

5 システムが装着されたハードディスクの環境を読み込み、自動的に設定が行われます。

Note **出荷時に装着されているドライブの内容**

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サブディレクトリが作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

6 システムコンフィグレーションメニューを終了します。

【Exit】-【Save and Reboot】を選びます。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔86ページ)をお読みください。

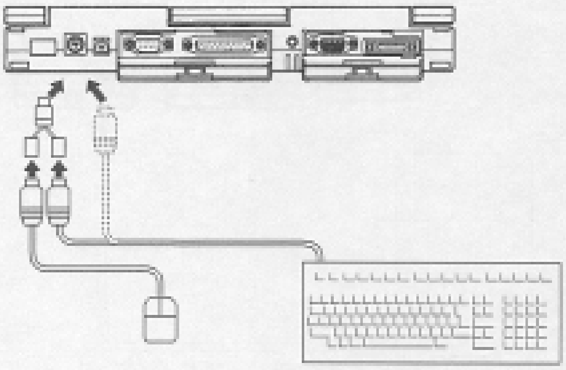
Note 新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブには、Windows®95はインストールされていません。
使いはじめるには、Windows®95のインストールを行ってください。インストールの方法については、添付のWindows®95のマニュアルをご覧ください。

5 外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードやテンキーパッド、またはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードを接続することができます。PS/2マウスを接続するときは、添付のスプリッタを使って接続してください。WinBook Birdをベースステーションに接続している場合は、ベースステーションのコネクタに接続してください。(➔104ページ)

⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で装着できません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。(➔98ページ)



本体背面の左側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボードまたはテンキーパッドのケーブルを接続します。
マウスを接続する場合はスプリッタを接続してからスプリッタのマウスコネクタにマウスを接続してください。また、スプリッタを接続することで、外部キーボードを同時に使えます。接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。

使用時の注意

グライドポイントとPS/2マウスは同時に使用することができません。どちらを使用するかはシステムコンフィグレーションの【Components】-【GlidePoint】の設定で切り替えます。デフォルトはグライドポイントが有効ですので、PS/2マウスを使用するときは無効にしてください。

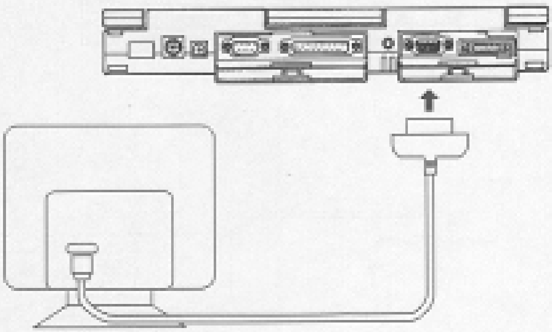
Note 外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行いながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。
なお、外部テンキーパッド側でNUMロックをONにしても、本体のNUMロックLEDは点灯しません。使用できる製品については弊社テクニカルサポートセンタへお問い合わせください。

6 外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、1024×768ドットの解像度で表示できるようになり、Windows®95をより広い画面で快適に使うことができます。WinBook Birdをベースステーションに接続している場合は、ベースステーションのコネクタに接続してください。(➔104ページ)

⚠注意 **接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で装着できません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFに設定してください。****(➔98ページ)**



コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを接続します。システムコンフィグレーションメニューのVGAのLCD/CRT設定がCRTまたはBOTHの場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することができます。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCDまたはBOTHの設定にしてください。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、「第5章 システムの設定を変える」(➔86ページ)をお読みください。

⚠注意 **外部モニタを接続した場合、Windows®95のコントロールパネル[画面]の中で「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。**

Note 一時的に表示ディスプレイを切り替える

Fn+F1を1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT同時の順に切り替わります。

4 システムを拡張する

ディスプレイの種類を設定するには

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。

3 [ディスプレイの変更]をクリックします。

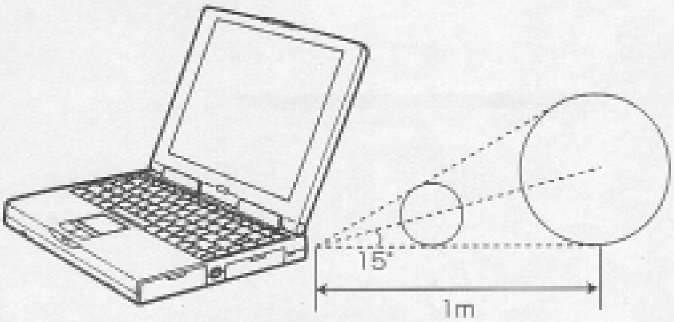


4 「カラーパレット」で色数を、「デスクトップ領域」で解像度を設定し、[OK]をクリックします。

5 Windows®95を再起動する必要があります。[システム設定の変更]ダイアログボックスで[はい]をクリックします。

7 IrDAポートを使用する

本製品には、赤外線でデータを送受信するための定められた規格である「IrDA」に準拠したIrDAポートが装備されています。IrDAポートを装備した他の機器とケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。



コンピュータの背面にあるIrDAポートと他の機器のIrDAポートがむかいあうように配置します。

⚠注意 **IrDAポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート間をさえぎると、通信不能になります。**

IrDAおよびシリアルポート、プリンタポートを使用して、他のパソコンとデータ転送をする場合は、添付ソフト「TranXit2™」のReadmeをお読みください。
なお、NEC製PC-9800シリーズとは、シリアルポートまたはプリンタポートからケーブルを使ったデータ転送はできません。IrDAポートを持っているパソコンのみと転送ができます。

第5章

システムの設定を変える

システムコンフィグレーションを使ってシステムの設定を変える方法や、パワーマネージメント機能の設定を変える方法について説明しています。

1 システムコンフィグレーションの設定

本製品では、コンピュータの動作状態や環境設定があらかじめコンピュータの中に記憶されており、電源をONにしたときに読み込まれるようになっています。ここでは、これらの設定を変える方法について説明します。

システムコンフィグレーションについて

システムコンフィグレーションとは、コンピュータの動作状態や環境設定を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行えます。

・カレンダの日付と時間を設定する(➔89ページ)
・起動方法と起動ドライブを設定する(➔89ページ)
・ディスプレイモードを設定する(➔89ページ)
・パスワードを設定する(➔90ページ)
・キャッシュメモリを使うかどうか設定する(➔90ページ)
・COMポートを選択する(➔90ページ)
・プリンタポートと動作モードを選択する(➔91ページ)
・キーボードの動作を設定する(➔91ページ)
・起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする(➔91ページ)
・グライドポイントを使うかどうか選択する(➔91ページ)
・スピーカから音を鳴らすかどうか選択する(➔92ページ)
・設定をデフォルト状態に戻す(➔92ページ)
・デフォルト値をリストアする(➔92ページ)
・システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する(➔92ページ)

⚠注意　システムコンフィグレーションを終了させると、設定した内容を有効にするために自動的にシステムが再起動されます。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、システムコンフィグレーションで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

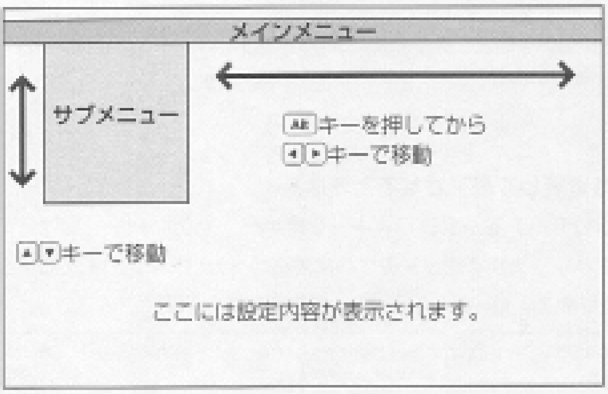
メニューを表示させるには…

システムコンフィグレーションは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、コンピュータの電源をONにしたすぐ後のメモリチェックのところで[Ctrl]と[Alt]と[S]キーを同時に押します。

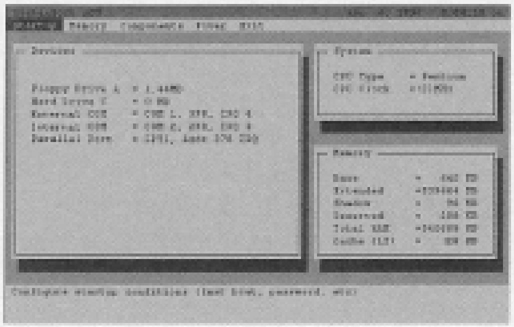
Windows®95が起動している状態からは、システムコンフィグレーションの設定は行えません。必ずWindows®95が起動する前にこの操作を行ってください。

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は[Alt]を押してから[◀][▶]キーでメインメニューを選び、[▼]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。



《項目の選択・設定の方法は》



（画面の設定値は例です）

- メインメニューを選択するには……………………[Alt]キーを押してから、[◄][►]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- サブメニューを選択するには……………………[▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- 項目を移動するには……………………[Tab]キーを押します。
- メニュー項目や設定を確定するには……………………[↵]キーを押します。
- 設定を変更せずに元に戻るときは……………………[Esc]キーを押します
- サブメニュー内で有効・無効を設定するには…[　　]キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- 項目内で有効・無効を設定するには……………………[▲][▼]キーで移動し、[　　]キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- 機能を使用しない設定にするには……………………【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- 終了するには……………………メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、[Esc]キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を変更して再起動させるときは》

【Save and Reboot】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてシステムコンフィグレーションが終了し、システムを再起動します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM. The
computer will be rebooted!!!
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して[↵]を押し、もう一度[↵]を押すと変更された設定が記憶されずにシステムコンフィグレーションを終了します。

各種の設定を行う

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

● **カレンダの日付を設定する**

【Startup】-【Date and Time】
現在設定されている日付が表示されますので、項目を移動して数字キーで日付を入力します。数字は日/月/年の順番で並んでいます。

● **カレンダの時間を設定する**

【Startup】-【Date and Time】
現在設定されている時刻が表示されますので、項目を移動して、数字キーで時間を入力します。数字は時/分/秒の順番で並んでいます。

● **起動方法を設定する**

【Startup】-【FastBoot】
クイックブート/ファーストブートを設定すると、メモリテストを行わずに起動します。この場合、システムの立ち上げが速くなります。

● **起動ドライブを設定する**

【Startup】-【Boot Device】
起動するドライブを、フロッピーディスク、ハードディスクのいずれかから選択します。

● **ディスプレイモードを設定する**

【Startup】-【VideoSelect】
BOTHを選択するとCRTとLCDを同時に表示します。LCDはLCDのみ、CRTはCRTのみを表示します。

Note **起動ドライブについて**

デフォルトでは、ドライブCのハードディスクからWindows®95が起動する設定になっています。

● パスワードを設定する

【Startup】-【Password】

Enable Password for Boot-up　　　システム起動時
Enable Password for SCU Changes　　システムコンフィグレーション起動時

システム起動時、またはシステムコンフィグレーション起動時にパスワードを入力させることができます。
いずれの場合も、パスワードに使用できるのは英、数字のみで、1文字から8文字の長さで設定します。
パスワードの入力を間違った場合は3回まで再入力できます。3回とも間違えた場合は、システムが再起動されます。

```
Enter Password:________
```

⚠注意　パスワードはメモを取るなどして忘れないようにしてください。忘れた場合は、ソーテックテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

● キャッシュメモリを使うかどうか設定する

【Memory】-【Cache System】-【L2 Cache】
2次キャッシュの設定を行います。
特に必要がない限りキャッシュは「Enable」（有効）にしてください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードが遅くなります。
1次キャッシュは常時有効です。

●COMポートを選択する

【Components】-【COM Port】
外部シリアルポート(External COM)はCOM1(3F8)で、使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはCOM1、COM3、COM4から任意に設定できます。
内蔵FAXモデムやIrda（Internal COM）は、COM2固定で、内蔵モデム（Modem）か赤外線通信（Infrarea）のどちらかに設定します。

⚠注意　COM2とCOM4は同時に使用できません。

● プリンタポートと動作モードを選択する

【Components】-【LPT Port】　ポートの設定

【Components】-【LPT Type】　動作モードの設定

通常はLPT1(378h)に設定しておきます。使用するアプリケーションにより、変更が必要なときはLPT2に設定することができます。動作モードは、通常「Bidirectional（PS/2)」に設定しておきます。

●起動時にキーボードのナンバーロックを有効にする

【Components】-【Keyboard Numlock】

システム起動時にキーボードのナンバーロック機能を有効にします。最初からテンキーパッドを使うときは有効にしておきます。

● キーボードの動作を設定する

【Components】-【Keyboard Repeat】

キーボードのオートリピートの間隔やオートリピートが始まるまでの遅延時間を設定できます。間隔は2cps(2文字/秒)から30cps(30文字/秒)までの範囲で設定できます。遅延時間は、1/4秒(250ms)から1ミリ秒(1000ms)までの範囲で設定できます。

● グライドポイントを使うかどうか選択する

【Components】-【GlidePoint】

外部シリアルマウスおよびPS/2マウスを使用するために、内部グライドポイントの使用を禁止することができます。

Word　オートリピート

ほとんどのキーは、押し続けることで連続してその機能を実行したり、文字を入力することができます。このように、何度も続けて押したときと同じ状態になることを「オートリピート」といいます。

Note　プリンタポート

本製品のプリンタポートはEPPとECPに対応しており高速転送が可能です。
EPPはXIRCOMが推奨している規格です。ECPはIEEE1284準拠で提唱されている規格です。

● スピーカから音を鳴らすかどうか選択する

【Components】-【Speaker】

チェックマークが付いているとスピーカから音が出ます。

なお、この機能で制御できるのはPCスピーカ（ビープ音）とPCカードからの音のみです。

● 設定をデフォルト状態に戻す

【Exit】-【Defaults】

各項目の設定値をデフォルトに戻します。

各項目のデフォルト値は次ページのとおりです。

● デフォルト値をリストアする

【Exit】-【Restore Settings】

システムコンフィグレーションの最後にセーブされた値をリストアします。

● システムコンフィグレーションのバージョン情報を表示する

【Exit】-【Version Info】

システムコンフィグレーション(BIOS)のバージョンおよび作成日付が表示されます。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Startup	Date and Time	No effect	デフォルトはありません
	Fast Boot	Not Fast Boot	メモリーテストを実行します
	Boot Device	HardDisk C	ハードディスクから最初にブート
	Video Select	LCD	LCDにのみ表示
	Password	Password Disabled	なし
Memory	L2 Cache	Enable	2次キャッシュオン
Components	External COM	COM1(3F8h) IRQ 4	シリアルポートはCOM1設定
	Internal COM	Infrared to COM 2	
	LPT Potrs	LPT1(378h) IRQ 7	プリンタポートはLPT1設定
	LPT Type	Bidirectional(PS/2)	
	Keyboard Numlock	Not Num Lock	NUMロックオフ
	Keyboard Repeat	Typematic Rate 10CPS	10文字/秒
	〃	Typematic Delay 500ms1/2sec	0.5秒
	GlidePoint	Enable	グライドポイントは使用できる状態
	Speaker	Enable On	PCスピーカ出力オン

2 パワーマネージメントの設定

本製品には、電力の消費を抑えるためのパワーセービング機能や、アプリケーションの実行中に電源をOFFにすると現在の状態をメモリに保存するサスペンド機能が搭載されています。ここでは、これらの設定を行う方法について説明します。

パワーマネージメントについて

パワーメネージメントとは、パワーセービング機能やサスペンド機能を設定したり、現在の設定を確認するためのプログラムです。

ここでは、次のような設定が行えます。

- パワーセービング機能を設定する(➔96ページ)
- サスペンド機能を設定する(➔98ページ)
- カバーを閉じたときの動作を設定する(➔99ページ)

⚠注意 パワーマネージメントを終了させた後、設定した内容を有効にするためにコンピュータを再起動してください。このとき、メモリ上に存在していたすべてのプログラムやデータは消失しますので、パワーマネージメントで設定を変える前には、必ず現在のデータをセーブしておいてください。

メニューと操作方法について

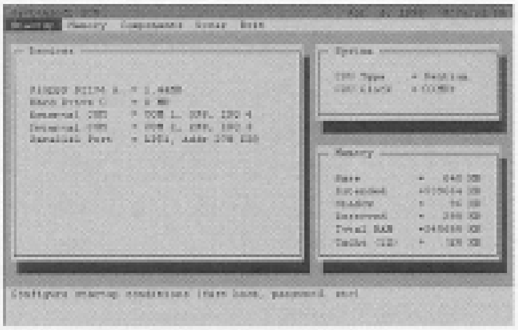
メニューを表示させるには…

パワーマネージメントは、メモリに常駐しているプログラムです。
このプログラムを起動させるには、システムコンフィグレーションメニューからPowerを選びます。(➔86ページ)

操作方法は…

画面の一番上にはメインメニューがあり、下には現在の設定状態の一覧が表示されています。設定項目は[Alt]を押してから[◀][▶]キーでメインメニューを選び、[▼]キーを押すとプルダウン式に表示されるサブメニューから選択します。反転表示されている部分が現在選択されている項目です。

《項目の選択・設定の方法は》



（画面の設定値は例です）

- メインメニューを選択するには……………[Alt]キーを押してから、[◀][▶]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- サブメニューを選択するには……………[▲][▼]キーでカーソル(反転部分)が移動します。
- 項目を移動するには……………[Tab]キーを押します。
- メニュー項目や設定を確定するには……………[↵]キーを押します。
- 設定を変更せずに元に戻るときは……………[Esc]キーを押します
- サブメニュー内で有効・無効を設定するには…[　　]キーでチェックマーク(√)の表示(有効)/非表示(無効)を切り替えることができます。
- 項目内で有効・無効を設定するには……………[▲][▼]キーで移動し、[　　]キーでマーク[●]の表示(有効)、非表示(無効)を切り替えることができます。
- 機能を使用しない設定にするには……………【Always On】【Disable】【None】を選択します。
- 終了するには……………メインメニューから【Exit】を選ぶとサブメニューが表示されます。また、[Esc]キーを押すことで、【Save and Exit】を選択した状態に移ることができます。

《設定を変更して終了させるときは》

【Save and Exit】を選択して[↵]キーを押すと、次のメッセージが表示されます。

もう一度[↵]キーを押すと、変更された設定がメモリに記憶されてパワーマネージメントが終了します。[Esc]キーを押すと、続けて設定を変更できます。

```
Press <OK>to save the current setup parameters to CMOS RAM and Exit
the SCU
```

《設定を無効にして終了させるときは》

【Exit(No Save)】を選択して[↵]を押し、もう一度[↵]を押すと変更された設定が記憶されずにパワーマネージメントを終了します。

各種の設定を行う

選択項目はメインメニュー、サブメニューの順で表記しています。

パワーセービング機能の設定

● パワーセービング機能を使うかどうか選択する

【Power】-【Enable Power Saving】

パワーセーブ機能の有効/無効を設定します。

【Power】-【Battery Only】

バッテリパックを使用しているときのみパワーセーブ機能が有効になります。

●パワーセービングモードを設定する

【Power】-【Low Power Saving】

【Power】-【Medium Power Saving】

【Power】-【High Power Saving】

「ディスプレイ(ビデオ)表示」「ハードディスクの電源」「グローバルスタンバイ」の3つをまとめて設定することができます。

それぞれのモードの時間設定は次のとおりです。

	Low Power Saving	Medium Power Saving	High Power Saving
ディスプレイ(ビデオ)	16分	4分	1分
ディスク	16分	4分	1分
グローバルスタンバイ	16分	4分	1分

● ディスプレイ(ビデオ)表示を消す

【Power】-【Customize】-【Video Timeout】

一定時間キーボードからの入力がなかった場合、自動的にディスプレイ(LCD・CRT)の表示を消します。このとき、表示は消えていますがシステムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間とalways ON(動作しない)で設定します。

● **ハードディスクの電源をOFFにする**

【Power】-【Customize】-【Disk Timeout】

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクが動作していない場合、自動的にハードディスクを停止する機能です。このときハードディスクは停止しますが、システムの動作は継続しています。時間は1分から16分の間とAlways on（動作しない）で設定します。

● **グローバルスタンバイにする**

【Power】-【Customize】-【Global Timeout】

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムの各部品の動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から16分の間とAlways on（動作しない）で設定します。キーボードを押したりグライドポイントを操作するとグローバルスタンバイは解除されます。

Note　クロックスピードが落ちると困るときは

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合にグローバルスタンバイの設定を行っていると、稼働状態に検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイ状態になってしまうことがあります。このようなときは、無効(Always OnまたはDisable)に設定してください。

Note　ネットワークを使っている場合

【Power】の設定項目はすべて「Always on」に設定しておくことをおすすめします。

サスペンド機能の設定

● サスペンド機能を使うかどうか選択する

【Power】-【Suspend Switch】

電源スイッチを押したときの動作を設定します。電源をON/OFFするか、サスペンドさせるかのどちらかを選択します。

電源ON/OFFが「チェックマーク無し」、サスペンドが「チェックマーク有り」です。

● オートサスペンド

【Power】-【Suspend Controls】-【Suspend Timeout】

［　　］(スペース)キーを押して［▲］［▼］キーで値を選択

システムが一定時間稼動していないと判断した場合、自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。システムの動作は停止し、ディスプレイ表示も消えます。時間は1分から30分の間で設定します。グローバルスタンバイよりも消費電力は少なくなります。任意のキーを押すなどの操作を行うとサスペンド状態から復帰しますが、レジュームには数秒かかります。

●ローバッテリ状態のときサスペンドさせるか設定する

【Power】-【Suspend Control】-【Low Battery】

バッテリがローバッテリ状態のとき、サスペンドさせるか（Suspend）警告音を鳴らす（Warning）かを設定します。

● カバーを閉じたときの動作を設定する

【Power】-【Cover Switch】

LCDカバーを閉じたときに、サスペンド機能を働かせるか、そのまま動作を継続するかを選択できます。

⚠注意　LCDカバーを閉じた状態で使用するときは内部の熱がこもらないように風通しの良いところでご使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合、過熱保護装置が機能し、システムの動作が遅くなります。この場合、電源をOFFにして温度が低下するまで使用しないでください。また、LCDカバーを閉じたまま使用した後、温度が下がらないうちにLCDカバーを開けて使用するとLCD上にムラが現れる場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、ムラは無くなります。

デフォルト設定値一覧

メニュー	サブメニュー	デフォルト設定値	説明
Power	Enable Power Saving	Saving Enable	パワーセーブを行なう
	Battery　Only	Enable	
	Low Power Saving	Disable	
	Medium Power Saving	Enable	
	High Power Saving	Disable	
	Customize	No effect	デフォルトはありません
	Suspend Switch	Disabled	サスペンドスイッチとしてではなくON/OFFスイッチとして使用
	Suspend Controls	Suspend Timeout:never Low Battery:suspend	
	Cover Switch	Blank LCD	液晶画面を消す

3 画面の解像度などを変える

本製品には、高解像度TFTカラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windows®95では最大800x600ドット・262,144色で表示することができます。他の解像度・色数・フォントサイズで表示させるときは、「画面のプロパティ」で設定を変更します。

出荷状態の設定

製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	:本体LCD表示のみ
デスクトップ領域(解像度)	:800×600ピクセル
カラーパレット（色数）	:True Color(24ビット)・・・262,144色
フォントサイズ	:小さいフォント・・・16ドット

設定を変更する

1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】-【コントロールパネル】を選びます。

2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。



画面

Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に変更する場合は、Fn+F1を押すと(CRT→LCD→同時表示)の順で切り替わります。常時一定の表示を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行います。(➔99ページ)

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

デスクトップ領域(解像度)は、本体LCD表示の場合「800×600ピクセル」「640×480ピクセル」に加え、「ディスプレイの種類」の設定を変更することにより、「1024×768ピクセル」も選ぶことができるようになります。(➔83ページ)

ただし、本体LCD表示で「1024×768ピクセル」に設定した場合は、仮想表示モードになります。

① カラーパレット



② デスクトップ領域

③ フォントサイズ

① **カラーパレット　表示する色数を選びます**

16色
256色
True Color(24ビット)・・・262,144色
(1024×768ピクセルの場合は65,536色のみです)

② **デスクトップ領域　デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。**

640×480ピクセル
800×600ピクセル
1024×768ピクセル

③ **フォントサイズ　表示するフォントサイズを選びます。**

小さいフォント
大きいフォント(640×480ピクセルの場合は選択できません)

4 [OK]をクリックします。

カラーパレット・フォントサイズ・ディスプレイの種類を変更した場合

Windows®95を再起動する必要があります。[はい]をクリックします。



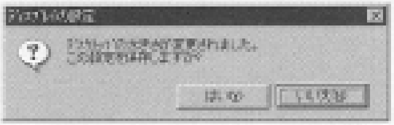
デスクトップ領域(解像度)のみ変更した場合

サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると数秒後に変更されます。



▼

変更したサイズを保存するときは[はい]をクリックします。



Note　仮想表示モードとは?

1024×768の表示面積の仮想ディスプレイがあるとして動作を行います。実際の表示は800×600ドットになっていますが、見えない部分(表示されない部分)は、カーソルを移動させると、自動的に画面がスクロールして見えるようになります。

Note　外部ディスプレイに表示させるときは

Windows®95を一旦終了させ、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システムコンフィグレーションでディスプレイ表示の設定を行ってからWindows®95を起動します。(➔89ページ)

第6章

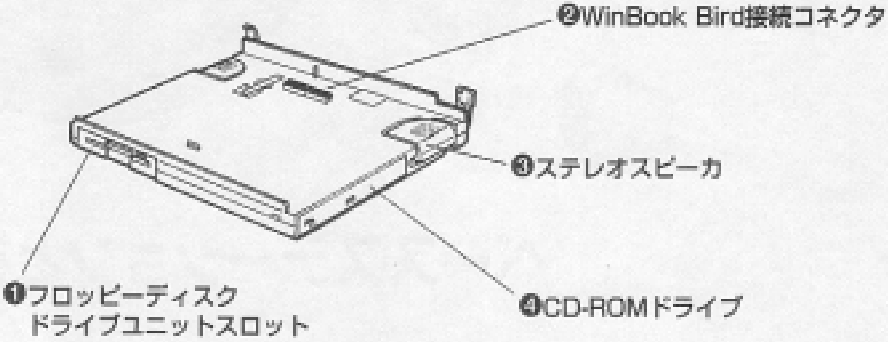
ベースステーションと接続する

ベースステーションの機能や接続方法について説明しています。

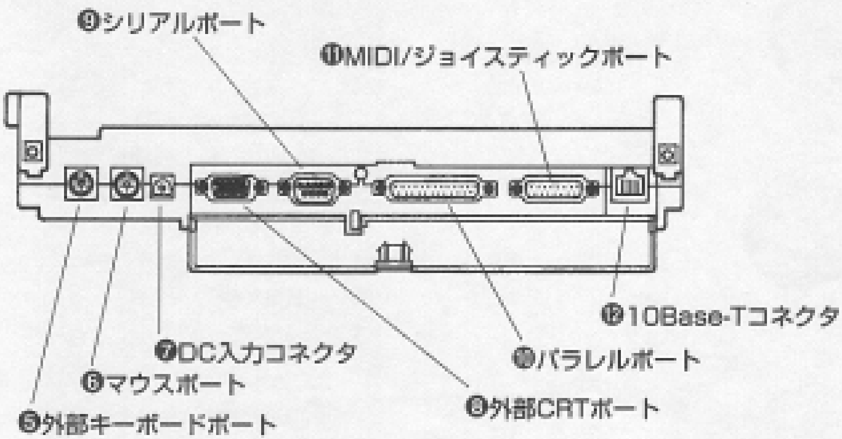
1 各部の名前と機能を確認する

ベースステーション各部の名前とその機能について説明します。

前面・上面



後面



❶フロッピーディスクドライブユニットスロット
WinBook Bird付属のフロッピーディスクドライブユニットを挿入します。

❷WinBook Bird接続コネクタ
WinBook Bird本体底部のベースステーション用コネクタと接続します。

❸ステレオスピーカ
ステレオスピーカです。

❹CD-ROMドライブ
6倍速のCD-ROMドライブです。

❺外部キーボードポート
PS/2外部キーボードを接続することができます。

❻マウスポート
PS/2マウスを接続することができます。

❼DC入力コネクタ
付属のACアダプタを接続します。

❽外部CRTポート
外部CRTディスプレイを接続します。

❾シリアルポート
モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィグレーションで「COM3」～「COM4」に変更できます。(➔90ページ)

❿パラレルポート
プリンタやスキャナなどパラレルポートを使う周辺機器を接続します。

⓫MIDI/ジョイスティックポート
MIDI規格の周辺機器やジョイスティックを接続します。

⓬10Base-Tコネクタ
LAN用の10Base-Tケーブルを接続します。(➔112ページ)

Note LANとは

Local Area Networkの略称で、同一構内における複数のコンピュータを接続したネットワークのことです。

Note マウス・外部キーボードポート

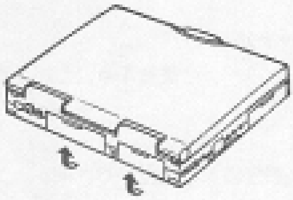
ベースステーションにはスプリッタ機能が入っておりますので、付属のスプリッタはベースステーションでは使用できません。

2 WinBook Birdに接続する

接続するには

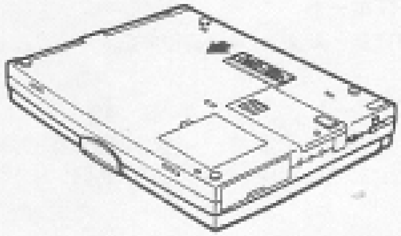
WinBook Bird底面部のベースステーションコネクタと、ベースステーションの接続コネクタを接続します。

⚠注意 ドッキングステーションと接続する前に、本製品の電源をOFFにしてから、WinBook Bird本体に接続されているケーブル類を全て外し、WinBook Bird本体背面のコネクタカバーを必ず閉じてください。

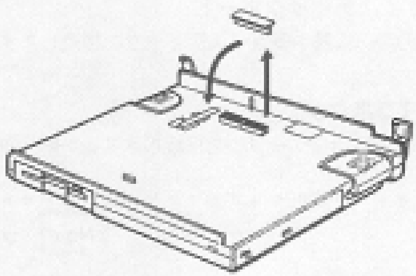


1 コンピュータの電源をOFFにします。

2 本体底面部のベースステーション用コネクタのフタをスライドさせて開きます。

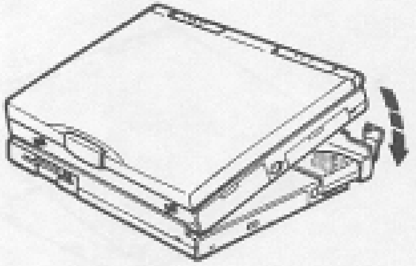


3 ベースステーションの接続コネクタのキャップをはずし、キャップホルダーに収納します。

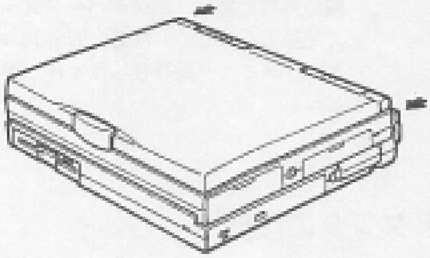


⚠注意 WinBook Birdと接続しないときは、ベースステーションの接続コネクタのキャップは必ずかぶせておいてください。金属物が接続コネクタに入り、ショートする恐れがあります。

4 ベースステーション前面のツメ(凸部)と、WinBook Bird前面部のくぼみ(凹部)が合うようにセットします。



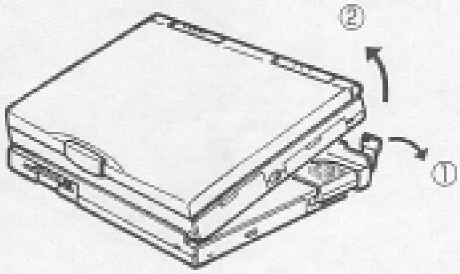
5 ベースステーション背面のツメをWinBook Birdにロックします。



ベースステーションとの接続により、WinBook Bird後面の端子は使用できなくなります。ケーブルなどはベースステーションの端子に接続してください。

取り外すには

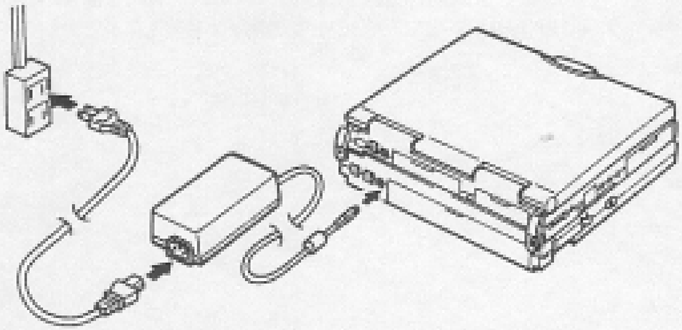
ベースステーションのツメをはずし、本体を取り外します。



⚠注意 取り外しの前には、本製品の電源をOFFにしてください。
取り外した後は、本体のベースステーションコネクタのカバーをスライドさせて閉じてください。なお、Windows95のスタートメニューに［取り外し(E)］というメニューが存在しますが、WinBook Birdの仕様上、この機能は働きません。

ACアダプタの接続

ベースステーションにACアダプタを接続します。



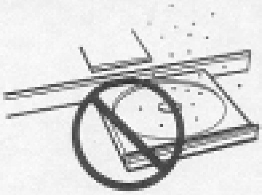
3 CD-ROMを使う

ベースステーションのCD-ROMを使う方法について説明します。

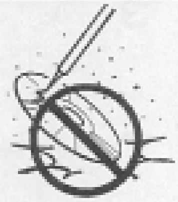
CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適当な場所に保管するようにしてください。

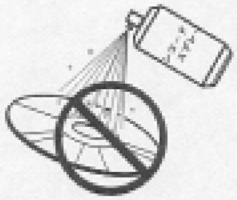
⚠ 注意



トレイを開けたままにしておかないでください。内部にゴミやホコリ入り込んで故障の原因になります。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。読み込みエラーの原因となります。



清掃するときは、レコード用クリーナーやベンジン、シンナーではなく、必らずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを増長させますので絶対に使わないでください。

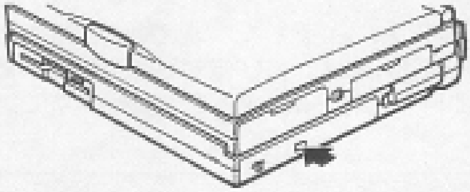


ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

CD-ROMの出し入れ

1 コンピュータ本体の電源をONにします。

2 イジェクトボタンを押します。



3 CD-ROMをセットします。文字が書かれている面を上にして、トレーにCD-ROMを確実に固定してください。

4 もう一度イジェクトボタンを押し込みます。

5 取り出すときは、アクセスランプが点灯していないのを確認してからイジェクトボタンを押します。

CD-ROMで楽しむ

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本製品ではこれらすべてのCD-ROMを再生することができます。

● **CD-DA**

音楽用CDです。音楽用CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows®95の「CDプレーヤー」を起動して音楽を聞きます。

● **CD-ROM XA**

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在、最もよく使われているのがCD-ROMです。

● **Photo CD**

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

● **Video CD(MPEG)**

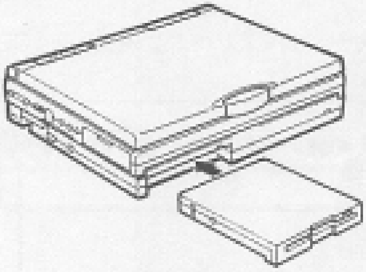
Video CDを見るには、Video CD(MPEG)対応のソフトウェアが必要です。

4 フロッピーディスクドライブユニットを装着する

WinBook Birdに、付属のフロッピーディスクドライブユニットを装着することができます。

装着するには

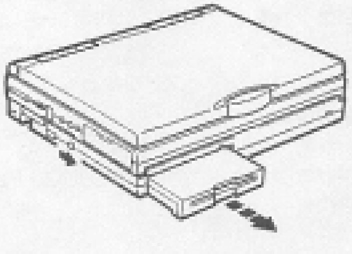
フロッピーディスクドライブユニットスロットに、フロッピーディスクドライブユニットを挿入します。



⚠注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で接続することはできません。この場合、パワーマネージメントで電源スイッチの機能をON/OFFにしてください。(→98ページ)

取り外すには

ベースステーション左側面のドライブユニットイジェクトボタンをスライドさせ、フロッピーディスクドライブユニットを引き出します。



⚠注意 フロッピーディスクドライブユニットを取り外す際には、ドライブユニットイジェクトボタンを確実にスライドさせてください。確実にスライドせずに取り外そうとすると、機器を壊す恐れがあります。

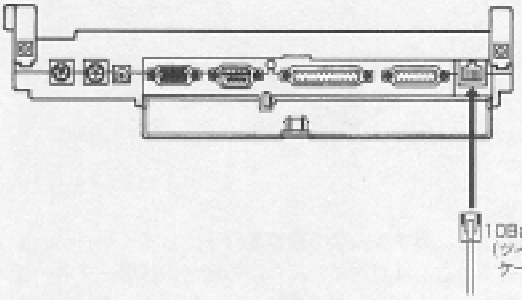
5 LANを使う

ベースステーションに接続することで、WinBook BirdをLAN環境に接続できます。
LANの設定は次のようになっています。

	I/Oアドレス	IRQ
LAN	320H	11

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコンフィグレーションの「Power」－「Customize」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

設定が終了したら、ツイストペアケーブルを10Base-Tコネクタに接続します。



10BASE-T LANポートをお使いになるには

WinBook Birdで、10BASE-T LANポートを使用するには、Windows95であらかじめ次の設定を行い、LANポートの使用を有効にしてください。

1. WinBook Birdをベースステーションに接続した状態で、Windows®95を起動します。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[設定] → [コントロールパネル] と選びます。
3. [コントロールパネル] ウィンドウから [システム] アイコンをクリックし、[デバイスマネージャ] を選びます。
4. [ネットワークアダプター] の「SMC9000 Ethernet Adapter」をダブルクリックしてください。
5. 「デバイスの使用」の「Undocked」のチェックボタンをクリックし、チェックを外してから、「Dock1(使用中)」のチェックボックスをクリックしてチェックします。
6. [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。

以上で設定は終了です。なお、使用するネットワーク環境に合わせて設定を変更する場合は、[コントロールパネル] の [ネットワーク] アイコンで行います。

第7章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどにお読みください。

1 トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行ってください。
もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、「ソーテック テクニカルサポートセンタ」までご連絡ください。(➔ 14ページ)

⚠注意 **キーボード、およびマウスからの入力を一切受けつけない状態（ハングアップ状態といいます）になったときには、Ctrl+Alt+Deleteキーでソフトウェアリセットを行ってみてください。もし、電源を立ち上げ直しても復帰できないときは、テクニカルサポートセンタまでご連絡ください。**

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの販売店にご相談ください。
電源スイッチにロックがかかっている。	電源スイッチの下にあるロックを外してから、電源スイッチをONにしてください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
輝度が正しく調整されていない。	輝度調整ノブで見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がCRTで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	コンピュータの電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONにしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクがセットされている。	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。
ハードディスクがしっかりと接続されていない。	ハードディスクをラッチがかかるまで押し込んでください。

●Windows®95が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行なわれるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。(➜ 86ページ)
Windows®95のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、前回、Windows®95が正常に終了できていません。	「Starting Windows95」と表示されている間に【F8】キーを押してすぐに離すと起動メニューが表示されます。ここで、「Safeモード」を選ぶと、通常の設定ではなく基本的な設定だけで起動させることができます。また、「Step-by-step Confirmation」(各コマンドの実行を確認する)を選ぶと、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®95起動時のトラブルの詳細についてはWindows®95のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	別のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(➜ 47ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。(➜ 123ページ)なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのまま読むことができます。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するか、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●スーパーVGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の時間になったのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	何かキーを押すと元の状態に戻ります。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使いたくないときは、パワーマネージメントの設定を変更してください。(➔ 94ページ)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている、または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし動かない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
外部マウスを直接接続している。	添付のスプリッタを使用してマウスを接続してください。スプリッタは外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。 ただし、ベースステーションと接続している場合は、スプリッタは使用できません。マウスを直接ベースステーションのマウスポートに接続してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを使用している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバー(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご使用ください。
Windows®95のセットアップユーティリティのグライドポイントが有効になっている。	無効にしてください。
システムコンフィグレーションメニューのグライドポイントが有効になっている。	無効にしてください。(➔ 91ページ)

●カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対処方法
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、"ひらがな/カタカナ"キーなどが間違って押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(➔ 50ページ)

●音が鳴らない

考えられる原因	対処方法
本体のボリュームノブがしぼられている。	ボリュームノブで音量を調節してください。
Windows®95のミキサーでミュートがチェックされている。	ミュートのチェックをはずしてください。
システムコンフィグレーションメニューのスピーカ出力が無効になっている。	有効にしてください。(➔ 92ページ)

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリ容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリを装着してください。
ACプラグアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(➔ 35ページ)

●バッテリLEDが点灯しない

考えられる原因	対処方法
バッテリ端子の接触不良。	バッテリを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
パワーマネージメントメニューの設定が正しくない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。(➔ 94ページ)
バッテリ容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリに交換し再度電源を入れ直してください。(➔ 27ページ)

●CPUクロックスピードがLOWスピードになる

考えられる原因	対処方法
CPUがオーバーヒートしている。	LOWスピードのまま使用してください。一定の温度まで下がると、自動的に通常のスピードに戻ります。
グローバルスタンバイモードに入っている。	グローバルスタンバイモードの状態に入ると、CPUのスピードが自動的に落ちます。グローバルスタンバイモードが使用する環境に適さない場合は、システムコンフィグレーションメニューのパワーセービングの項目に対し、チェックを外してください。

●内蔵MODEMが認識しない

考えられる原因	対処方法
内部の赤外線通信ポートが選択されている。	システムコンフィグレーションメニューの設定を、IrdaからInternal COMに変更してください。(➔90ページ)
MODEMボードが正しく接続されていない。	本体の電源をOFFにし、MODEMを取り外してください。その後、モデムを接続し直して、操作をやり直してください。

⚠注意　ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしかねますので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

Appendix

本ユーザーズガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

7 索引

し

す

せ

そ

た

て

と

な

に

は

ひ

Appendix

2 製品の仕様

本体システム仕様

モデル		S3P150G
CPU		Pentium 150MHz
システムRAM	標準	16MB
	最大	48MB(16MB DIMM 2枚追加時)
BIOSROM		256KB　フラッシュROM
ビデオメモリ		2MB PCI（33MHz）アクセラレータ付き
ハードディスク		1.35GB
フロッピーディスク		外付けドライブユニット 3.5インチ3モード 1.44MB/1.2MB/720KB
ビデオ	LCD	800×600ドット TFTカラー26万色 0.28ピッチ RGB一組 11.3インチ冷陰極管バックライト
	CRT	最大1024×768ドット カラー65K色(ノンインターレース) LCDと同解像度にて同時表示可能 ※DOSモード640×480ドット
インターフェース		シリアルポート(16550AタイプUART互換) IrDAポート 外部CRTポート 外部キーボード／マウスポート パラレルポート(EPP/ECP対応) フロッピーディスクコネクタ PCMCIA V2.1 ICカードスロット(TYPEⅡ×2 TYPEⅢ×1) LINE IN端子 MIC IN端子 SPEAKER端子
内蔵キーボード	仕様	3mmキーストローク メンブレン型
	キー数	87キー(106キーエミュレーション)
内蔵ポインティングデバイス		キーボード組み込み型グライドポインタ2ボタン式
内蔵サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドFM音源 サウンドブラスター互換
内蔵スピーカ		モノラル
内蔵マイク		モノラルマイク内蔵
機密保護機能		パスワード設定による保護機能
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 ハードディスク停止 サスペンド・レジューム機能 （ユーザ選択可能）
カレンダ・時計・設定		リチウム電池によるバックアップ5年間
電源	ACアダプタ	入力100V～240V 50・60ヘルツ
		出力19V 2220mA
	電池	リチウムイオン電池 14.4V 2700mA
寸法		280(W)×216(D)×39(H)mm
質量		約2.2Kg

ベースステーション仕様

モデル	S3BS001
フロッピーディスク	WinBook Bird本体に付属のドライブユニットを装着可能
CD-ROMドライブ	12cm/8cm 6倍速
インターフェース	マウスポート 外部キーボードポート 外部CRTポート シリアルポート(16550AタイプUART互換) パラレルポート(EPP/ECP 対応) MIDI/ジョイスティックポート 10Base-Tコネクタ
スピーカ	収納式36mm径ステレオスピーカ+50mmスーパーウーハー
電源	ACアダプタ（本体付属品使用）
寸法	280(W)×219(D)×21(H)mm
質量	約1Kg

⚠注意

- 上記のハードウェア仕様は、オペレーティングシステム(OS)、アプリケーションソフトウェアによっては、サポートしない場合があります。
- 弊社MMU-2000はWindows95に対応していないため、本製品では使用できません。

Appendix

システムメモリマップ

アドレス	領域
FFFFFFFFH FFE00000H	システムBIOS領域
FFDFFFFFH 01600000H	予約領域
027FFFFFH 00800000H	拡張メモリカード増設領域
007FFFFFH 00400000H 003FFFFFH 00100000H	標準実装16MB領域
000FFFFFH 000F8000H	システムBIOS
000F7FFFH 000F0000H	PMプログラム領域
000EFFFFH 000E8000H	システム領域
000E7FFFH 000E0000H	PnPBIOS
000DFFFFH 000CA000H	アッパーメモリ予約エリア
000C9FFFH 000C0000H	VGA BIOS
0000BFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ
00009FFFFH 000000000H	メインメモリ640Kバイト

システムI/Oマップ

03F8H~03FFH	COM1シリアルポート(シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03EFH	予約領域
03E0H~03E1H	ICカードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT3プリンタポート
0380H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1プリンタポート(プリンタポート)
0300H~036FH	予約領域および内蔵モデム
02F0H~02FFH	PCMCIAのCOM2用として予約
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2プリンタポート
0230H~026FH	予約領域
0220H~022FH	サウンドチップ
0200H~021FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMAコントローラ2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ2
0080H~009FH	DMAページレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック·カレンダ·その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~0053H	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMAコントローラ1

( )内はデフォルト設定の割り当てを示します。

Appendix

WinBook Bird
ユーザーズガイド

1996年10月　2版
株式会社ソーテック

SOTEC

961009-02-1520